

あそび

第 5 号

平成 15 年 5 月

都高等学校性教育研究会

目 次

はじめに	会 長 小泉 功 -----	1
活動報告	事務局長 井谷 亨 -----	2
講演会	「性感染症の現状について」・・相談事例から・・ -----	3
	講 師 吉田 敦子 先生	
	「教育改革と高校生の性」 -----	4
	講 師 田能村祐麒 先生	
大会報告	第32回全国研究大会 -----	8
	第12回関東甲信越静研究大会 -----	12
都性研研修会等	都性研特別研修 -----	17
	一泊研修会 -----	18
公開授業	歴史の中の女性と結婚	
	～ 「結婚」について考えてみよう ～ -----	19
	都立世田谷泉高等学校 榎 茂喜 教諭	
	光森佐和子 教諭	
投稿論文	「親と子の関わり方」	
	— 子育ての過去・現在・未来 — -----	25
	投稿者 小泉 功	
	「高校生の性行動・四半世紀の歴史」 -----	29
	投稿者 川端 洋介	
	「私の両国高校での性教育」 -----	35
	投稿者 田原 正之	
「思春期学と私」 -----	41	
投稿者 竹井 操		
「学校教育における性教育」		
— 「性の授業」の導入とその一例 — -----	45	
投稿者 宮原 万亀		
組 織	会 則 -----	49
	役 員・「あふるる」投稿規定 -----	50
	会 員 校 -----	51
あ と が き	副会長 筒井 邦雄 -----	52

はじめに

東京都高等学校性教育研究会長
小泉 功

昭和 50 年 (1975) 7 月 10 日に都高等学校性教育研究会が結成されて以来 28 年目を迎えました。その間、学校改革の質的・量的変化が繰り返される中で、日本経済のバブル期から崩壊による打撃を学校は直接受けました。

その影響と徹夜で営業するコンビニの登場で深夜まで街にたむろする若者が増え、親子関係の希薄さを生み出し、青少年の心の貧しさを表出させました。

性教育関係では、H I V に代表される S T D 問題、援助交際や買売春など子どもへの性的被害など社会は大きく変化しています。

高性研は、生徒を取り巻く時代の背景を直視して、都教委との連携を深めながら都性研とともに様々な調査研究を行い、学校教育を通して、生徒の健全育成に正面から取り組んで参りました。

この高性研の機関紙「あふるる」を発行して第 5 号を迎え、益々充実した研究会として発展しています。今後は 2 年後の結成 30 周年を目指して、日本の高校生未来を見据えた性教育のあり方をテーマに更に研究を深めたいと思います。

◎高性研の素晴らしい会員を紹介します。現在は、北九州市の K 大学付属高校に勤務する M 先生は瘦身ながら溢れんばかりのバイタリティの持ち主です。学校全体を動かして教職員とともに性教育を行い、子ども達の心に「命の大切さ」を最優先に取り組んだ先生です。

現在も都性研の個人会員として日帰りなどの強行軍で東京の研究会に積極的に取り組みながら、今では福岡県内で性教育の講演活動をしています。さらに M 先生は性教育の研究やその経験を本にまとめました。「命の大切さ」の実践研究を多くの人に知ってもらいたいとの意欲が強く感じられる 1 冊の本です。

◎今、学校教育では心の教育の必要性が強く叫ばれています。その中で子供たちの心に響く活躍をしている人に会いました。

①都内小金井市在住、生命保険会社に勤務する Y さんは、薬物に関する講演会に参加して、子供たちへの影響などの実態を知り、地域の子供たちを薬物の害から守りたいとの一念で、市教委、医師会、学校関係者、町会、市内企業などに働きかけて、ボランティア活動『子ども達を薬害から守る実行委員会』の実行委員長として夫人と一緒に活躍しています。

一市民がこれほどまでに薬害から子供を守るために努力する姿に私は大変感動しました。

その後、少しずつではあるが確実に市内に協力する輪が広がり、今では、「薬物乱用防止ポスター」作品展の実施等を通して薬害に対する意識が中学生を中心に定着しています。

②武蔵小金井駅前交番の巡査に手話ができる「おまわりさん」がいて、ろう者の方から大いに感謝されています。手話ができるということで市民との間に信頼感が生まれ通りすがりの人たちがニコニコして挨拶する風景は、心の清涼剤となっています。

③杉並消防署には手話のできる消防官がいます。彼とは手話サークルと一緒に勉強しています。消防活動、救急活動での手話技能の必要性を強く強調する姿に障害者への思いやりの心を読み取ることができました。

「心の教育」につながる良い人たちに接することが出来ました。

★平成 15 年度 性教育研究大会の予定

- ①都高性研研究協議・総会 5 月 16 日 (金)
地下鉄後楽園駅そば 日本性教育協会 会議室
- ②第 33 回全国性教育研究大会
兼 第 13 回関東甲信越静研究大会
8 月 6 日 (水) ~ 8 月 8 日 (金)
開催地 栃木県 宇都宮市

活動報告

1. 総会

平成14年5月26日(金)
於日本性教育会館

- (1) 平成13年度事業報告、会計報告と承認
平成14年度役員改選
平成14年度事業計画、予算承認

- (2) 講演 「性感染症の現状」
講師 吉田 敦子先生
(日本家族計画協会 思春期相談員)

2. 役員会・理事会

4月19日(金) 理事会 都立武蔵高校
7月 9日(火) 理事会 都立武蔵高校
2月14日(金) 理事会 都立武蔵高校
3月14日(金) 理事会 都立小金井北高校

3. 研究活動

4月19日(金) 於都立武蔵高校
*総会の準備、実態調査について
6月13日(木) 於日本性教育会館
*都性研講演会「性教育の今日的課題」
講師 田能村 祐麒先生
7月 6日(土) 於都立両国先生
*都性研研究協議 実態調査について
7月 9日(火) 於都立武蔵高校
*研究協議 実態調査について
8月20日(火) 於日本性教育会館
*都性研研究協議 調査報告と研究協議
8月21日(水) 於日本性教育会館
*都性研研究協議 実態調査で現れた課題
9月28日(土) 於都立両国高校
*都性研研究協議 性教育の考え方・進め方
10月25日(金) 於都立世田谷泉高校
*公開授業 「歴史の中の女性と結婚」
都立世田谷泉高校 榎 茂喜教諭
" 光森佐和子教諭

10月26日(土) 於都立工芸高校
*都性研講演会 「思春期の健康問題」
講師 高石 昌弘先生
12月13日(金) 於日本性教育会館
*都性研講演会 「性感染症・エイズ教育での対応をどうするか」
講師 田能村 祐麒先生
1月23日(木) 於エミール
*講演会 「教育改革と高校生の性教育」
講師 田能村 祐麒先生
2月14日(金) 於都立武蔵高等学校
*研究協議 今年度の反省と次年度課題設定、紀要誌「あふるる」について
3月14日(金) 於都立小金井北高校
*研究協議 紀要誌「あふるる」について、次年度の活動計画について

4. 大会参加

8月6日(火)～9日(金) 於札幌市
第32回全国性感教育研究大会
テーマ「生きる力と性教育」
*第6分科会において発表
「家庭・地域・学校等の連携と性教育」
10月19日(土) 於前橋市
第12回関東甲信越静性教育大会
*第1分科会において発表
「総合学科設置校における性教育」
11月29日(金)
第22回東京都性教育研究発表会
テーマ 「東京都児童・生徒の性意識・性行動」
*高等学校の部において発表
1月25日(土)～26日(日) 於秩父市
都性研 宿泊研修会
講師 田能村 祐麒先生

1. 日時 平成14年5月16日(木)
2. 場所 日本性教育協会 会議室
3. 演題 「性感染症の現状について」
・・・相談事例から・・・

講師 吉田 敦子 先生
(日本家族計画協会 思春期相談員)

* * * * *

去る5月16日(木)、午後3時15分より、平成14年度定期総会及び講演会が開催されました。

総会終了後、上記、日本家族計画協会 思春期相談員の吉田敦子先生による、「性感染症の現状について」協会クリニックに相談に来た相談者の事例から話を聞くことができました。

吉田先生は助産師のかたわら日本家族計画協会クリニックで思春期相談員を勤めています。はじめに性感染症(STI)について説明がありました。種類は10種類以上あり、なかでも大きく分けると次の3とおり、①性器に感染している起因微生物が性行為により伝播するもの(性器クラミジア感染症・性器ヘルペス・尖圭コンジローム・梅毒淋病など)②血液中に存在するウイルスが精液、膣液に含まれ性行為で伝達されるもの(HIV・ATL・HBVなど)

③唾液中に発現しやすい持続感染ウイルスがキスにより伝達されるもの(サイトメガロウイルスなど)があります。

STIの特徴は、潜在性・持続感染性・侵襲性・再感染性・重複感染性などがあり、感染すると自然治癒は難しく医療機関にて治療を要するものである。

次に思春期クリニックに見るSTIについて話がありました。10代の若者に増えているクラミジア感染症は、年々増加しており、都保健所(12ヶ所)や東京都南新宿検査・相談室で2000年1月から12月に性感染症の検査を受けた人のクラミジア抗体陽性率は、男性は全年代を通して陽性者が20%の前半に比べて女性は10代は49%が陽性、50代でも57.1%(女性は他の年代でも全て30%超)でした。この徴候の裏には、性行動の早期化・低年齢化によるものが考えられます。

1999年 青少年の性行動全国調査によると、性交経験率は男子高校生26.5%、大学生62.5%、女子高校生23.7%、大学生50.5%であった。この数値を多いとみるか、少ないとみるかは人それぞれ違いがあると思われませんが、STIは思春期の若者のなかで着実に増加していることは事実である。

クリニックへ相談にきた中・高・大学生の事例を通して思春期の性感染症の現状が分かり、若者の人間関係の複雑化を知りました。

最後にStop the STIとして、予防行動がとれるためには

セックスできるのはどんな人?

セックスのリスクは妊娠と性感染症

コンドームを使わない、使えない、使ったのに有効でない・・・

パートナーには感染を告げないフランス男子・・・

だれでも自分のこと以外では断言はできないという事実をどう確認して行動するか? 性の問題を健康問題として捉える教育をどのように進めていくか?(道徳教育ではなく)etc

以上、現場で働く私たちに、ひとつの提言をいただくことができました。

文責 林美智子

講演会

期 日：1月23日（木）

場 所：神楽坂エミール

講 師：田能村 祐麒先生

（田能村教育問題研究所長）

内 容：「教育改革と高校の性」

講演内容の要旨

1 児童生徒の性意識・性行動の現状

一般的な状況

ア 性交に対する意識の変化

イ 身体的・生理的発達の早熟化、精神的発達とのアンバランス

ウ 性交経験率の増加 初交年齢の低下

エ 複数の相手との性交経験の広がり

オ 性交に至るまでの交際期間の短縮化

カ 妊娠、性感染症予防に対する無知、安易な行動選択

キ オーラルセックスの普及

ク 売買春及び類似行為の増加

ケ 性感染症に対する安易な意識

コ 避妊の実行率の低調、コンドーム使用率の低下

サ 性被害経験の増加

シ アダルトビデオの影響

以上のような状況に対して、「教育課程の基準の改善のねらい」や保健体育審議会の答申の中で、ある程度、具体的な対応の仕方が述べられていることから、個々の健康課題への対応については省略し、現代の子どもの健康課題の基本的事項と思われる内容について、私見を述べてみたい。

2 「自ら」を育てる

中央教育審議会の第一次答申では、これからの子どもたちに必要となっているのは、いかに社会が変化しようと「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自主的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」であり、また「自らを

律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性」と「たくましく生きるための健康や体力」であると考え、これらの資質や能力を変化の激しいこれからの社会を「生きる力」と称し、家庭や学校や地域社会が十分に連携し、バランスよく教育に当たることが重要であると述べている。

さらに教育課程の基準の改善ねらいでは、(1) 豊かな人間性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること (2) 自ら学び、自ら考える力を育成すること (3) ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること (4) 略を示している。

しかし、現代の子どもにとっては、次のような理由から「自らを築く」ことや「自己を確立する」ことが最も重要ではないだろうか。

(ア) 日本人の人間観

欧米では「個人」を *an individual* というように、分割不可能な社会の究極的単位をさして、強固な自我意識をもち、自らの判断と責任において自由な意思決定をし、自力でもって行動しようとする存在である。また他者とのかかわりの前に、自己自身の行動の主体性を確立しておこうとする傾向が強い。

これに対して、日本人は、ひとを「人」あるいは「人間」と表記するが、ひとはひととひととが支え合っている存在であり、文字どおり人と人との間の存在であるということであって、日本人はまず既知の、あるいは、身近なものとの対人関連の中で、自己の存在を意識したり、自己の果たすべき役割を確認する。言い換えれば、自己自身の存在の根拠を自己自身の内部にもっているのではなく、自己自身を他者とのかかわりにおいて対象化する。

したがって、欧米人は自己をあくまで尊重し、対人関係はむしろ自己確立の手段としてとらえていて、つねに自己と他者とを明確に対立させて考え、自由な意思決定をなし得る「自己」こそ、人間社会の中の根拠であるとして、他者への依存や

他者からの依存を拒否する。したがって、他者に対して不信の傾向にあり、集団生活をスムーズに営むために自他相互で権利、義務を確認し、明確な意思決定をする。

日本人は自らの存在を対人関連の中で対象化するため、自他がいわば共存的な存在という自己意識から、他人に対しては自己ではなく「自分」と表現する。また日本人にとっては、他者との問題が自分と同じくらい重要な基盤となっていて、対人関係そのものを重視する価値観から生じた「世間体」とか恥といった文化で行動や態度を規制してきたし、個人の主体性よりも「親子だから」「夫婦だから」「先輩・後輩だから」といった間柄が優先されてきた。

また日本人の対人関係は、相手が身内であるか他人であるかを強く意識する。この場合最も強いつながりをもっているのは血縁関係であって、これを中軸にして、親戚、隣近所、職場、学校へとより弱い関係が同心円形に変化していて、「ミウチ」とか「ナカマウチ」と呼ばれる世間があり、自分にとって最も外側、言い換えれば無縁の存在として「タニン」とか「ヨソノヒト」と呼ばれる世間がある。日本人の多くはこのような世間に対して恥ずかしくない行動することを社会規範の基本においてきた。

それが戦後、民主主義思想の普及とともに、わが国は身分、階級、年齢による上下関係などによって維持されていたタテ社会から、個人を尊重するヨコ社会へと転換して、日本人の人間観は大きく変わってきたが、日本人の間に欧米人のような自己概念が形成されているとはいえ、むしろアイデンティティの拡散というようなことがいわれてきた。

(イ) 自他の性に対する理解と認識

人間は他の動物と違って、ただ生命を維持するだけでなく、人間としての固有の生活を営み、幸福に生きようとする。この場合、人間は男か女かという事実（生物学的性）や身分が男であることや女であるということ（心理的、社会的、文化的）をどう理解し認識しているかによって生き方に差

異が生ずる。したがって「生きる力」を育むためには、自己の性に対する認識を確かにさせる必要がある。

この場合、人間の「性」は、性科学の発達によって、セクシュアリティという幅広い概念でとらえるようになった。さらに1960年末から70年代のはじめまで単に性別を表すセックスと同意語あるいは文法における名詞や性を表す言葉にすぎなかったジェンダーという言葉が、セックスと区別された「文化的、社会的、心理的」性別を表す言葉として使われるようになった。

このことについて詳述する余裕はないが、日本人に歴史の中で起こった性別分業、性別役割が、政治的、文化的なメカニズムに支えられて、様々な性的ステレオタイプがつけられ、一人一人の性別役割観をつくりあげてきた。それは男性とはどういう人間か、女性とはどういう人間かということに関して、人々が個人的に抱く概念、言い換えれば個人個人の基本的な男性像・女性像を形づくる鋳型の役目をしている。

しかし社会の変化によって男性あるいは女性であることの意味は大きく変化しており、古い時代の固定的な性別役割やそれによる性差別が問われている。とくに1975年に第1回女性会議以来、女性の社会的地位の向上の問題と女性の性の問題が重視されるようになり、「男女共同参画型社会の形成」を目指す中で、男女平等の推進が強調されており、さらには職場におけるセクシャル・ハラスメントが大きな社会問題をなっている。このため人々の自・他の性に関する理解や認識が重要な課題となっている。

(ウ) 自尊感情の喪失

自尊感情とは、ある事に成功したときに感ずる満足感や他人から何らかのことで自分が認められたり、賞賛された時に感ずる喜びなどであり、それが自分も「できる」といった自信や自分も「やってみよう」という意欲をもたらす。またそれを喪失すれば、物事に対する「やる気」を失ったり、自棄的になったりする。

戦後の貧困時代には、家族で家事を家庭外に発

注するようになったことや進学競争の激化によって、偏差値による評価が中心になったこと、都市化によって近隣との交際が希薄になったことなどから、自尊感情を得ることができなくなり、それが様々な問題行動発生の要因となっているという事ができる。

3 対人関係を育てる

人間は社会的な存在であり、一人で生きていくことはできない。同性や異性と様々なかかわりを持ちながら生きていく。「生きる力」はそのかかわりの中で育まれたり、阻害されたりする。たとえば中教審が「生きる力」とする自ら律することや、他人と協調し、他人を思いやる心などは、同性や異性との人間関係の中で育まれるが、人間関係が悪ければこれらの資質や能力が低ければ同性や異性との人間関係を結ぶことはできない。しかしいまの子どもたちに関しては次のような問題がある。

(ア) コミュニケーションの能力の未発達

人間の対人的行動は、心理的な快感を追及し、苦痛を回避しようとする。この場合人間は多くの心理的快感を周囲の人との関係から獲得するが、同様に多くの苦痛も周囲の人が原因となって生ずる。また自分の行動のしかたによって相手に自分が快感を得るような行動をさせたり、相手から快感を受けようとして相手が喜ぶような言動をすることも少なくない。

このような対人関係を確立し、発展させ、維持するために人間には二つの機能がある。一つは話しことば、または文字にできる言語であり、他の一つは非言語的コミュニケーションといわれる機能である。人間はこれらの機能をまず家庭において習得し、人間関係の広がりによってそれを発達させていくが、最近では家庭生活や社会生活の変化によって、ひとつの家庭に物理的空間には共に暮らしながらも、家族どうしの心の交流や人間关系的な温かさが急激に失われてきたことや進学競争による塾通いなどによって自然発生的な子どもの群れが消滅したこと。また近隣のつきあひも薄れたことなどからコミュニケーションの能力を学ぶ機会が失われてきている。

(イ) 男女の人間関係

わが国では、戦前まで男尊女卑の思想や男性に寛容で女性に厳格な性の二重倫理、さらには「男は仕事・女は家事」といった固定的な性役割観などが存在し、これらによってつくられた性的ステレオタイプによって性による様々な差別が生じてきた。また、「男女七歳にして席を同じうせず」といった風習があり、結婚を家と家との結びつきと考え、見合い制度がとられたこともあって、未婚の男女が平等の立場で自由に交際することは世間をはばかられた。

これらのことから、戦後民主主義時代を迎えて50年を経た今日なお、日本人の男女関係は未熟であり、子どもが異性とのつきあい方を知りたいと望んでいるにもかかわらず大人が解答できずに現在に至ってきた。このため子どもたちは社会的要因に大きく影響されて、思春期の男女関係に様々な歪みが生じている。たとえば数年前までは長電話が問題になったが、今日では携帯電話、パソコン通信などメディアを利用した通信関係が広がっており、さらには風俗産業を利用したり、援助交際、売買春、薬物乱用に向かう子ども生じて大きな社会問題になっている。

4 他者の「生き方の」尊重

人間は他者と様々な人間関係をもち、集団生活を営んで生きていくが、そこでは互いに他者の「生き方」を尊重する行動や態度が求められる。それには人間尊重の精神の徹底が求められるが、現状を見ると、いじめ、暴力行為、登校拒否、自殺、人工妊娠中絶、売買春やその類似行為などの他、様々な偏見・差別の問題が多発していて、人間尊重の精神が浸透しているとはいえない状況にある。

人間尊重の精神については、「生命の尊重、人格の尊重、人間愛の底を貫く精神であり、日本国憲法に述べられている基本的的人権や教育基本法に述べられている人格の完成ということを支えるものである」(中学校指導書 道徳編 昭和53年 文部省)とされており、学校は全教育活動を通してその徹底に努めてきたはずであるが、生命尊重が

生物レベルの扱いにとどまっていたり、生命尊重、人格尊重がお題目にとどまっているといえる。このためあらためて生命尊重、人格尊重、人権尊重とはどういうことかについて理解を深めさせる必要がある。

(ア) 生命尊重

すべて生命を有するものは、動物であろうと人間であろうと、自分の生命を維持することを主張しているのであって、同じ主張をするもの同士はお互いの主張を認めざるを得ない。そこではお互いの生命維持の権利が認められていて、容易に殺しあったりすることはない。しかし生命圏の仕組みを振り返ってみると、個々の生命体は自分の生命を維持するために、他の種族の生命を餌としており、すべての生命体が「食いつ食われつ」することなくして生命圏は生き残ることはできない。このため生命圏の理想状態を保つためには、生命圏を構成している最も進化した生物である人間も、個々の生命体の生命維持の権利を尊重し、他の生命体を必要以上に迫害するようなことのないよう生命圏の原理にかなう行為が求められる。

また他者に対する行為については、人間が生きるといえることは、ただ生命を維持するというだけでなく、人間に固有な生活を維持し、幸福に生きるといえることである。したがって、人間の生命を尊重するといえることは、誰もが平等に人間としての生活をする権利や、幸福になる権利をもっていて、それを誰も理由なく阻害されないということやお互いがそれを尊重し合うことだといえる。

(イ) 人格尊重

人間は誰もが生命や生活を脅かされないためや幸福になるために、身体的、精神的な自由を求め、身体的、精神的な苦痛を避けようとする様々な訴えをもっている。したがって人間はただ生命を維持するだけでなく、人間としての生活をすることや幸福を願っている以上、これらの様々な訴えが満たされなければならない。

それには、このような訴えの根源として、すべての人がお互いを認め合い、尊重し合うことが必要である。したがって人格の尊重ということとは、

様々な訴えの根源として、相手を認め、尊重するということである。またすべての人を訴えの根源として認め合うためには、訴えを公表する自由がなければならないし、訴えの公表を尊重し合うことが必要である。

しかし、人間は様々な訴えを持っていて、それを主張し合う限り、他人との衝突が起こる。したがってお互いに人格を尊重し合うためには、自分の訴えや主張を他とのかかわりの中で調整しなければならない。それには相手に対する思いやりが必要になる。

(ウ) 人権の確立

人間の権利は、人間が生きているという事実から生ずる。したがってまず生きる権利というものが考えられる。この場合、人間が生きていけるということは、ただ生命を維持するというだけでなく、人間に固有な生活を維持し、幸福に生きていけることである。それには前述のようにすべての人が訴えを公表する自由がなければならないし、このような自由はおおよそ人たる以上平等に有すべき権利であって、日本国憲法に定められている。

しかし、現在の社会生活では、「すべての国民は法の下に平等である」と定めながらも、人々相互の関係において差別が生じている。平等の考慮ということが正しく成り立つためには、取り扱いの平等についての「ふさわしい理由」がはっきり示さなければならない。わたしたちの日常生活の中にある様々な不平等について、もしその理由が示されるならば、誰もその不平等を納得しないわけにはいかない。しかしこの「ふさわしい理由」といえることが問題であるために、様々な差別が問われている。

子どもたちが当面する個々の性の課題は、その発生要因が多様である。そのため以上述べたような基本的要因を手がかりにして、対策をつかむことができるならば幸せである。

第32回全国性教育研究大会報告

期日 平成14年8月7日(水)～9日(金)

会場 北海道厚生年金会館

プレコングレス

8月6日(火) 北海道厚生年金会館

(1)「総合的な学習の時間における性教育の展開」

米田 祥子(札幌市立簾舞小学校教諭)

(2)「東京都における中学生の性に関する意識調査」

近藤智春(新宿区立落合中学校教諭)

(3)「東京都における高校生の性に関する意識調査」

川端 洋介(東京都立国際高等学校教諭)

(4)「性・エイズ教育をテーマとした新しいライフスキル学習法の開発」

武田 敏(千葉大学名誉教授)

第一日 全体会

8月7日(水) 北海道厚生年金会館

あいさつ

全国性教育研究団体連絡協議会
理事長 田能村 祐麒

開催地報告 北海道性教育研究会会長
青柳 史匡

北海道における性教育の組織的研究活動は、戦後の混乱期を背景に「純潔教育」が提唱された当時、札幌市教育委員会の研究委託校となった札幌市立柏中学校中心に取り組みが始まった。昭和46年(1971年)の設立に関する趣意書には、「性の教育は、人間尊重の精神から男女を正しく理解し、正しい人間関係を認識させ、子供達に健全な社会や家庭の建設を可能にさせる教育であり、人間の一生を通じて健全な人格形成をうながす教育である」と高らかに謳っている。この考え方は、今もって色あせることなく、むしろ、ますます輝きを増すものとなっている。本研究会は、この考え方を基本に今日まで研究と実践を積み重ねている。

組織的には、6ブロック、15地区で組織化して研究活動を行っている。北海道性教育研究会の研究大会が本年度で31回を迎え、各ブロック持ち回りで開催している。

基調講演「21世紀における性教育のあり方」
全国性教育研究団体連絡協議会
理事長 田能村 祐麒

教師はもちろん他の人々の間にも、人間の性や性教育に対する多様な意識や見解が存在しており、しかも、学校は、新学習指導要領に基づく教育課程の編成、実施に追われていたり、児童生徒の学力低下を懸念する声もあって、児童生徒の性意識、性行動に大きな変化が現れて来ているにもかかわらず、性教育は停滞気味だと言うことが出来る。

このような状況にあつては、まず性教育に対する概念を整え、その機能を明らかにしたうえで教育改革のねらいを踏まえて、21世紀における性教育のあり方を考える必要がある。その場合、次のような視点が重要であると考えられる。

①性教育の学習目標の具体化、明確化

学校が性教育の目標を達成するために、選択、構成した性教育の内容を教育課程に位置づけて授業として行う性教育と、児童生徒の現実の生活に即して、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質を高めようとする生徒指導としての性教育とが考えられる。

学校における性教育の目標を把握し、それを発達段階に応じて、さらには将来を展望して具体化を図り、授業のねらいを明確にしておくことが大切である。

②性教育の学習内容とその構造化

学校教育の目的を具体化した性教育の基本的目標を達成するために必要な内容として、学習者のニーズやウオント及び社会的ニーズによって選択し構成する、

選択した学習内容は、新学習指導要領に基

づく性教育の指導計画として、それぞれの学校の教育課程に位置づける必要がある。この場合、学習内容の構造化が重要な課題となる。

③学習形態の工夫と総合的な学習の時間の設定

様々な学習形態の中から授業の計画・実践に当たっては、学習者の発達段階や興味・関心に状態、学習目標や学習内容、指導計画、教材・教具の準備状況、学習の場の条件などを配慮して選択し決定するが、複数の学習形態を組み合わせた授業展開を行うことが多い。

各学校が地域や学校の実態等に応じて特色ある教育活動を自由に展開できるよう時間が確保された「総合的な学習の時間」に性教育をどう位置づけるかが大きな課題といえる。

特別講演A「動物の子育てに学ぶ」

動物科学館館長 長尾 章郎

人間の豊かな生活が限られた資源しかない地球の環境を破壊し、一方では人間関係の希薄化や児童虐待などが社会問題になっている事について、動物の社会から学ぶことが有りはしないか。

円山動物園での動物の子育て(猿の子育て)をとおして、仲間づくりや異性との関係、子育てのあり方、あいさつ・心の教育・本物による感動・自然環境への思いやり等を語る。

特別講演B「男とは女とは」

性の健康医学財団会頭 熊本 悦明

男と女の本質は何か、「生き物」としての男と女を考え直してみたい。

思春期の男子・女子への教育的扱いに、彼たちを本当に「生き物」としてみているか、あたかも文化的産物のお人形のような扱いをしているのではないかとの感が強い。そのような危機感にたって、あえて人間の「生き物的性格」をあえて主張させていただいたわけである。

男女の文化的生活の裏面にある体内生物学

的環境により醸し出される男女の性行動・生活行動パターンを正しく理解する必要があると考えている。

第二日 全体会・分科会

8月8日(木) 北海道厚生年金会館

「総合的な学習の時間」の実践発表

札幌市立柏中学校性教育研究委員会

学校における性教育は、性の「生理的側面」だけでなく、人間尊重の精神から男女平等・協力など、性的成熟に伴う「心理的側面」をを理解し、健全な異性観を持てるよう「社会的側面」を養い、生徒一人一人が確かな意志と判断力を持って行動出来るよう支援する。

総合的な学習の時間の各学年のねらいを1学年「自分を知ろう」、2学年「豊かな人間関係を築こう」、3学年「社会に返そう」と設定し、性教育のテーマを「男女の生き方を見つめる」として2学年でおこなった。

研究主題である「自ら生きる力を求める性教育」の実践であり、保護者や関係機関との協力を得ることによって、性教育をより強く「生きる力」に結びつけることが出来る。

特別講演C「心の健康と性教育」

神戸大学教授 石川 哲也

学校における性教育の具体的な目標は、①男性又は女性としての自己の認識を確かにさせる。②人間尊重、男女平等の精神に基づく豊かな男女の人間関係を築くことが出来るようにする。③家庭や様々な社会集団の一員として直面する性の諸問題を適切に判断し、対処する能力や資質を育てる事である。

性教育の目的を実現するためには、人間関係に関する内容を一層充実する必要があるということから、青少年の健全育成と薬物乱用防止を目的とした包括的なプログラム(ライオンズ・クエストプログラム)の紹介。

ライフスキル(生きる力)を育む性教育、ライフスキルと性行動。

第1分科会「幼児期・小学校低学年における性教育」

発表者 北海道教育大学教育学部附属旭川幼稚園養護教諭 南向 素子
札幌市立もいわ幼稚園養護教諭 内木 美穂
東京都荒川区立尾久小学校養護教諭 松本ひろみ

助言者 日本子ども家庭総合研究所母性保護部長 宮原 忍

司会者 大田区立仲六郷小学校校長 中村 俊一

第2分科会「小学校中学年における性教育」

発表者 東京都渋谷区立神宮前小学校養護教諭 志野 治子
函館市立八幡小学校教諭 半田 啓一

助言者 前北海道浅井学園大学短期大学部教授 國島峯夫

司会者 盛岡市立大慈寺小学校校長 岡山 侑

第3分科会「小学校高学年における性教育」

発表者 熊本市立城西小学校教諭 今市 清美
帯広市立西小学校教諭 斉藤 好孝

助言者 北海道性教育研究会研究講師 櫻井 文雄

司会者 熊本県性教育研究会会長 吉田 晃

第4分科会「中学校における性教育」

発表者 岩手県山田町立山田中学校教諭 小松 順一
札幌市立稜陽中学校教諭 吉田 文昭

助言者 新潟大学教授 皆川 興栄

司会者 新宿区立東戸山中学校校長 堀内比佐子

第5分科会「高等学校における性教育」

発表者 岡山県清心女子高等学校教諭 秋山 繁治
北海道長万部高等学校教諭 木太 宏人

助言者 千葉大学名誉教授 武田 敏

司会者 和歌山県性教育研究会会長 藤本 巖

第6分科会「家庭・地域・学校等の連携と性教育」

発表者 苫小牧医師会附属看護専門学校非常勤講師 能登八重子
東京都立代々木高等学校校長 筒井 邦夫

助言者 医療法人社団慶愛病院副院長 真井 康博

司会者 岡山県立大学短期大学部教授 山本 勉

第7分科会「性の問題行動への対応」

発表者 栃木県保健福祉部児童家庭科主査 荒井 浩巳
北海道警察本部生活安全部少年課少年補導担当統括官 吉本眞智子

助言者 科学警察研究所防犯少年部主任研究官 内山 絢子

司会者 東京都立小金井北高等学校校長 小泉 功

第八分科会「性感染症と性教育」

発表者 栃木県栃木女子高等学校教諭 田村 一美

札幌東豊病院医員 蛭名 紀子

助言者 特定非営利活動法人ぷれいす東京代表 池上千寿子

司会者 渡部 基 北海道教育大学助教授

第九分科会「障害のある人と性」

発表者 和歌山市立雑賀小学校教諭 岩本 のり

札幌市立豊成養護学校教諭 前野紀恵子

助言者 東京学芸大学助教授

加瀬 進

司会者 東京都心身障害者福祉センター主
事 山本 良典

第10分科会「中高年の性を考える」

発表者 札幌 三樹会病院医師
佐藤 嘉一
日本赤十字社医療センター臨床心
理士 金子 和子

助言者 医療法人社団光生会介護老人保健
施設長 石田 雅巳

司会者 日本性教育アカデミー代表幹事
黒川 義和

第三日

8月9日(金)全体会 北海道厚生年金会館
特別講演D「男女共同参画社会の実現を目指
して」

北海道東海大学教授 岡田 淳子

性教育は、生物的・生理的側面からアプロ
ーチされることが多い。しかし、性について
は、生物としての性(セックス)とともに、
文化を持つ人として社会的に認知されている
性(ジェンダー)があり、文化的・社会的ア
プローチも必要である。

男女共同参画社会は、男女平等ではなくジ
ェンダーの平等を目指すものである。日本に
新しいジェンダーが成立し、男女に能力差が
無いこと、男女雇用機会均等法によるセクシ
ャルハラスメント防止、働き方と子育ての多
様化等が定着することによって、男女共同参
画社会という男女ともに不満の少ない社会が
到来するようねがっている。

特別講演E「妊娠・出産をとおして子供達の
性を考える」

医療法人社団カレスアライアンス日
鋼記念病院長 藤本征一郎

思春期の適応障害として、摂食障害や人格
障害などを持つ子供達も増加している。また、
マスメディアからの性情報の氾濫、刺激的な
広告などにより思春期の性行動の活発化があ
る。これらの「思春期危機」の回避のために
若年者の妊娠・出産、性感染症、避妊などの
問題を直視し、性教育のあり方を考える契機
を醸成したい。

思春期女子の性行為、妊娠による身体的・
精神的障害の発症は、若年男子ばかりでなく
成年男子ににその原因を求め得る事例が多く
社会問題である。

次期開催地

栃木県

関東甲信越静性教育研究大会と兼ねて行う。

「総合学科設置校（チャレンジスクール）における性教育」

～『総合的な学習の時間』での性教育への取り組み～

東京都立世田谷泉高等学校

教諭 長井正徳

1. はじめに

本校は、平成13年4月に開校した新しいタイプの高等学校である。入学者選抜が作文と面接のみによって行われることもあり、学力に差があるだけでなく、これまでに色々な人生を送ってきた生徒が集まってくる。そんな様々な生徒に対応すべく、三部制や総合学科、単位制など、これまでの高等学校とは異なる教育課程になっている。また、多様な選択科目や基礎科目を設けたり、体験的な学習を重視したりすると共に、少人数やチームティーチング（以下TT）によって学習するなど、授業にも特色がある。

本校は生徒の過去を問わず、これからの人生についての生き方・考え方を重視する学校である。生徒の過去について本人の前で触れることはタブーであるかのような雰囲気を感じているが、それだけ複雑な過去を持つ生徒、もしくはデリケートで傷つきやすく、プレッシャーやストレスに弱い生徒が多いという事であると認識している。また、基礎学力が不足している生徒、身体的・精神的な病で悩みを持っている生徒も複数在籍している。

このような生徒の実態を考慮すると、日常の中での言葉かけ一つ一つにも注意が必要である。年度当初には職員会議において生徒の実態の報告・確認したり、生徒への対応についての研修会を開いたりするなどして共通理解を図っていることも、多様な生徒を受け入れる対策として考えることができる。

2. 本校の現状

本校において、扱う領域、比重等に差はあ

るものの、複数の教科・科目で『性』に関する内容を扱っている。平成14年度現在開講されている必修科目の中では、『保健』、『家庭一般』、『生活実践』、『産業社会と人間』で主に扱っており、他にも選択科目や来年度以降開講予定の科目で『性』に関する内容を含むものを準備している。このように生徒が性教育を学ぶ環境が整いつつある一方、恥ずかしながら本校ではまだ性教育の教育課程は確立されていないため、教育課程に基づいた指導内容等はなく、指導方法でさえ模索しているのが現状である。カリキュラム等で形を固めると同時に中身を整理し、より計画的・組織的に取り組み、充実した性教育の実現につなげていきたいと考える。今後、まず本校が取り組むべき課題として、性教育の教育課程の確立、各教科における基本計画の作成、各教科の教員間における共通理解の徹底があげられる。

様々な実態・過去を持っているチャレンジスクールの生徒の一番の特徴は、小・中学校での不登校経験者が半数以上を占めること。これは、小・中学校における性教育を受けていない生徒が多いことを表しており、基礎・基本の知識不足が予測される。また、複雑な家庭環境を持つ生徒が目立ち、家庭における性教育が不十分である生徒が多いことも否定できないだろう。

次に、人間関係を形成することが苦手な生徒にも留意しなければならない。今まで不登校等が原因で人と接する機会が少なかった生徒が多い本校において、挨拶、返事、会話などの対人関係の基本ですら難しい生徒も少な

くない。それに併せて、思春期の生徒にとって性に関する学習は興味・関心の高いものである一方、多少なりとも羞恥心、不潔感、卑猥感を抱くことは残念ながら未だ拭いきれない事実である。ましてや人前で『性』の問題について考えたり、発表したりすることは生徒にとって抵抗ある活動だと容易に予測できる。そんな生徒たちへの性教育をより効率よく質の高いものにするためには、生徒と教師、あるいは生徒同士の人間関係の充実、信頼関係の確立が不可欠であると考え。その人間関係、信頼関係を築く上で、生徒たちのコミュニケーション不足は大きく高い壁になり得ると危惧している。以上のことを踏まえると、本校において充実した性教育を行うには、経験・知識・コミュニケーション不足の克服が第一条件である。

上記のような生徒の課題を解決し、性教育を通して生徒の人間形成を目指す上で、教師の役割として、まず学習内容、活動方法を考える前に、興味・関心がありながら、多少なりとも苦手意識を持つ性教育に対して、生徒が前向きに取り組んでいくための条件を少しずつ整えることが必要である。前述のような印象を少しでも和らげ、一緒に取り組んでいけるような気心の知れた人間関係が生徒と教師との間で確立できれば、お互いにとって有意義な活動をスムーズに行うことができると思うからである。そのためにも、日頃から生徒とあらゆる場面で積極的に関わり、生徒一人一人への理解を深め、授業を作り上げる以前の人間関係を築いていきたい。

また、生徒に『性』が身近な問題であるという意識を定着させることも大切である。生徒にとって元々興味・関心の高い分野であり、身のまわりでは『性』に関する情報が溢れている。しかし、マスコミなどでは人間の『性』を興味本位で扱うことが多く、生徒の『性』

に対する認識を誤ったものにしたたり、人間性の育成を阻害したりする可能性があるといっても過言ではない。また、生徒にとって本、テレビ、雑誌等による情報は『性』に関する主たる情報源であり、興味・関心の対象である一方、単なる好奇心で一時的に取り扱ってしまい、自分に直接関わる問題として捉え、真剣に考えることは難しい。昨今の『性』に関する事件・問題に対して他人事として処理してしまうのではなく、それらの現状や原因について考える機会を設けると共に、生徒と同年代の実態を示すデータを積極的に活用することで、ある意味危機感を与えながら、身近な問題として捉え、『性』に対する正しい認識・理解を促していきたい。もちろん生徒の興味・関心を引き出す題材・内容の工夫を追求することはいうまでもない。

性教育の充実が総合的な人間形成へとつながり、様々な問題の解決へと発展していく過程において、生徒理解・人間関係の確立、興味・関心を引き出す話題・情報の提供、教材・教具の工夫を最優先すべき教師の役割として挙げる。

3. 性教育の実践

本校における性教育のあり方を考えていく前に、高等学校における性教育の基本目標を確認しておきたい。

- ① 男または女としての自己認識を確かにさせるとともに、異性に対する認識を深めさせる。
- ② 人間尊重の精神に基づいて男女の人間関係を築くことができるようにする。
- ③ 家族や社会の一員として生きていくうえで必要な人間の性に関する基礎的・基本的事項を習得させ、現在及び将来の生活において、性にかかわる諸問題に対して、適切な意志決定ができるようにする。

《総合学科としての性教育》

本校で性教育を実施している科目の中に、総合学科科目である「生活実践」「産業社会と人間」がある。一般の高等学校には存在しない科目においても性教育を扱っていることは、内容・形態共に特色のある取り組みを行いやすい環境を持ち合わせているということであり、この2科目における性教育への取り組みは、性教育の充実を目指す上で大きなヒントになると考えている。

2科目に共通する特徴は、クラス単位でTTを行っていること。「生活実践」は家庭科とクラス担任、「産業社会と人間」は公民科・地歴科とクラス担任によって授業が行われている。TTを行うにあたっての課題をいくつか挙げてみる。

- ① 適切な教員配置と明確な役割分担
- ② 生徒の実態、指導内容・方法の共通理解
- ③ 評価基準・方法の徹底

これらの課題が本校において全て解決していると断言できないが、それぞれについて検討を重ねている状態であるといえる。この検討を重ねていく過程および年間通しての成果を今後の取り組みに生かしていきたい。

本校における「保健」の授業では1クラスを2つに分け、少人数できめ細かい指導を目指しているが、内容は教科書、ノートを中心とした講義方式の授業である。講義方式の授業ではどうしても教師主体になり、生徒が自主的・能動的に取り組むことは難しく、性教育の基礎・基本の獲得が主な成果として考えられる。性教育の基本目標の達成のためには授業で得た知識をより深めると共に、知識を生かす能力の獲得が必要であり、講義以外に生徒が主体となって学習を進めていけるような学習方法が求められる。「生活実践」「産業社会と人間」は2時間連続の授業であるため、それらを実現できるような幅広い授業形態を

展開できるというメリットもある。視聴覚教材の活用や調査活動を積極的に行い、情報収集や情報処理能力を高めることも可能である。

本校の生徒の実態を考えると、TTによって生徒の状況をより正確に把握し、2コマ続きの時間を活用して性教育を多面的に捉え、様々な手段を通して実践していくことが効果的であると考えている。

《『総合的な学習の時間』の活用》

「総合的な学習の時間」は『生きる力』を培うことを基本的なねらいとした学習指導要領の改訂によって創設されたものであり、そのねらいは次の2つである。

- ① 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
- ② 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

これは、生徒主体の学習を必要とする性教育の目的と合致し、「総合的な学習の時間」で性教育に取り組むことは非常に有効であるといえる。

本校では「総合的な学習の時間」を2年次に履修し、1クラス3展開で1グループ10人前後の少人数で実施している。1年間を3期に分け、1期14時間程度の内容とし、『健康』『文化』『環境』のそれぞれの領域をローテーションして1年間で3つの領域を学習することになっている。今年度よりスタートした授業であるため、まだ手探り状態であるが、今の段階でいち早く性教育に取り組み、教育課程を作成していく上で基盤となるような成果を挙げていきたい。

「総合的な学習の時間」において性教育を行う上での注意事項を次の様に考える。

- ① 他の教科・科目等での形態・内容と重複・類似しないように心掛ける。
- ② 生徒の『性』に対する認識の現状を正しく把握する。
- ③ 課題設定の際には生徒の実態を考慮する。
- ④ 生徒一人一人が自分の考えを表現できるように配慮し、コミュニケーションスキルの育成を図る。

各注意事項に対する具体策として・・・

- ①：あくまでも生徒主体のものを目指し、教師は正しい知識獲得のための講義、情報・資料提供や学習が円滑に行えるような助言および指導のみを行う。
- ②：意識調査アンケート、ブレインストーミング等の実施。
- ③：生徒にとって受け入れることのできない課題・テーマもあることを理解し、全員が意欲的に取り組めるよう、選択の幅を広げる。
- ④：ロールプレイ、ディベートなどの多様な方法を用い、全員が成果を確認できる場を設ける。また、その方法の指導も事前に行う。

*本校の「総合的な学習に時間」において、1グループが一つの領域を学習するのは、わずか14時間（2コマ×7週）である。この時間内に性教育を総合的に深く学ぶのは困難であり、生徒一人一人の課題選択に幅を持たせつつも、ある程度、教師がテーマを絞っておくことが賢明であると考える。

4. おわりに

生徒にとって興味・関心が高く、日常生活をしていく上で身近な問題でもある性教育を通して『他者とのコミュニケーション』『自分自身の考え・意見を持ち、人前で発表する』『他の人の意見を聞き、自分なりの感想を抱く』などの様々な場面を経験することは、集

団行動や人間関係を苦手とする生徒の『生きる力』の育成に必要な要素であるといえる。特に意思決定や意思表示の経験はコミュニケーション能力を養い、諸問題に対して主体的、適応的、積極的に対応する能力を育むことが期待できる。そこで、「総合的な学習の時間」で性教育を学習することは非常に有効であり、積極的に実践していきたいと考える。

このような教師側の意向に沿って成果を挙げるには生徒側の目的意識の向上が不可欠であるが、生徒にとって『性教育』はどんなものなのか。興味・関心があり、身近な問題であるということは、多くの生徒が共通して抱く印象であると思われる。しかしながら、羞恥心などによって真剣に考える意識が持つことが困難であったり、講義形式の授業によって主体的に学習する習慣がなかったりと、各自が意欲的に取り組む機会が学校において不足していたのではないだろうか。その結果、生徒の『性』の情報源は本、雑誌やマスコミ、インターネットなどに偏り、少なからずとも、誤解・偏見を抱きやすい状況であったのだと考える。学校で『性』に関する諸問題について考える環境と機会を与え、生徒一人ひとりが自分の意見・考えを持つことができるようになれば、正しい知識の獲得だけでなく、諸問題に対して、自らの意思で解決する能力が養われていくのではないかと考える。

未完成な部分が多い「総合的な学習に時間」であるが、その分可能性があるということである。まだ、様々な課題が残され、内容、形態などにも検討、改善が求められる状況ではあるが、生徒の反応、学習状況を一番の研究材料として、活動を積み重ねていきたい。「総合的な学習の時間」の充実が生徒の人間形成の手助けとなると考えると共に、現在の取り組みの結果が今後に生かされ、目標の達成に少しでも近づくことを願っている。

《指導計画》

週	回	テーマ	形態	生徒の学習内容	留意点
1	①	『性』とは・・・ 性意識調査	講義	・『性』の認識不足を解消し、これから学んでいく心の準備をする。	・生徒の苦手意識を考慮し、様子を見ながら話を進める。
	②	・『性』のイメージ ・男女の性差 ・性犯罪 ・家族、愛 等	ワークシート	・現在の『性』に関する知識を確認すると共に、様々な問題に対する自分の考えをまとめる。	・具体例を提示するなど、生徒の率直な意見・考えを引き出すことを心掛ける。
2	③	性交とエイズ	講義	・同年代のデータ・情報から実態を読み取り、現状を把握した上で自分の考えをまとめる。	・同年代の現状を深く考えよう。具体的な数値を確認しながら丁寧にデータの分析・解説を行う。
	④		ワークシート		
3	⑤	性交とエイズ	視聴覚教材使用	・映像を通じてイメージを膨らまし、より現実的な問題として捉え、考える。	・イメージ→データ・グラフ→映像と考える対象が、具体化されている事を説明する。
	⑥		ワークシート		
4	⑦	個別学習 【課題】	調べ学習	・各自が自分にとって興味・関心の高い問題を自分の意思で決定し、主体的に学習する。	・生徒の意欲を尊重し、課題選択の幅は広く構える。
	⑧				
5	⑨	・性感染症 ・避妊・不妊		・図書館、インターネットなどを活用し、学習方法・調査方法を学ぶ。	・具体的な事例を挙げる等、生徒が選択しやすい状況を作る。
	⑩				
6	⑪	・性犯罪 ・結婚と離婚 等			・情報提供や調査方法については協力することを伝えるが、生徒が主体的に取り組みむことを強調する。
	⑫				
7	⑬	発表会	ディスカッション プレゼンテーション	・自らの学習の成果を発表し、自己表現能力を高める。	・発表に対してそれぞれ長所を挙げたり、感想を言ったりして、生徒同士がお互いの発表を認め合えるよう促す。
	⑭	事後学習	ワークシート	・学習内容を確認すると共に、自己評価をすることで今後の学習意欲を高める。	・取り組み姿勢に関して振り返り返る中で、生徒自身の達成感を重視する。

*欠席が多く、発表会に参加できない生徒は、レポートを提出する。

平成14年度 都性研 性教育特別研修会

都性研として、学校教育における、性教育への取り組みが十分に組み立てられていないことと新学習指導要領の実施に向けて、教員の専門性の向上を図るために、《総合的な学習の時間における性教育のあり方》《これからの性教育の考え方・進め方》を性教育の専門家、教育関係者などを講師として、下記の日程・内容にて研修会を実施しました。

一、日程・内容・会場

回	日程	内 容	講師・発表者等	会 場
1	6/13 (木)	講演「性教育の今日的課題『性教育の基礎基本的事項』について」 ○本研修の全体計画の内容説明	田能村 祐麒 全性連理事長 小 泉 功	日本性教育協会
2	7/ 6 (土)	東京都の性教育に対する取り組み	都教育委員会	都立両国高
3	8/20 (火)	調査研究報告と協議 (平成13年度都性研実態調査から)	都性研研究委員	日本性教育協会
4	8/21 (水)	実態調査に現れた課題について	同 上	日本性教育協会
5	9/28 (土)	性教育の考え方・進め方 各校種の年間指導計画と実践報告	各校種より 助言 都教委	都立両国高
6	10/26 (土)	講演 「思春期における健康問題」	高石 昌弘 前思春期学会会長	都立工芸高校 視聴覚室
7	12/13 (金)	講演 「性感染症・エイズの性教育での対応はどのようにするのか」	田能村 祐麒	日本性教育協会
★ 研修時間 各回とも 午後1時30分受付 午後2時開始 午後4時30分終了				

研修会後の評価アンケートにより平成15年度に向けての改善策を検討し、次の案が提出された。

- 1) 目的は、その時の実態に合わせて、研修担当から総務会に図る。
- 2) 都性研行事として、前年度3月中には、計画を示して、準備を進める。
目的・テーマ・研修方法・期間期日・対象者・講師講演者選択・会場・予算・都教委や関係団体との連携・各校種との連携・参加者へのPR・評価改善について計画準備する必要がある。
- 3) 研修方法は、14年度と同様に講演と研究発表に合わせた研究協議を取り入れたものとする。
- 4) 期間は、2・3ヶ月の短期間で実施する。
1回目を6月17日&24日、2回以降は、7月22・23・24日、8月27・28・29日を中心に研修会を実施する。
- 5) 会場は、固定として、日本性教育協会の会議室とする。
- 6) 参加対象は、全都の幼・小・中・高・心障学校の教職員、関係者とし、都性研の研修担当者が事務局と協力して、PR活動を行う。但し、都性研事務局は、研修担当者を支援し、研修会をサポートしていく。

以上 文責小泉

2003, 1, 25 於秩父

第1回の会場であった秩父農園ホテルに久しぶりに戻っての第20回目の宿泊研となった。ホテル到着後昼食をとり早々に会場に入り、「性教育の今日的課題」をテーマに田能村祐麒先生にたっぷり2時間程ご講演をいただく。「日本の現状と性教育」及び「男女（性対象）のかかわり」の延べ12枚ものレジメを用意されてのお話、もっと沢山の人の聞いてほしかったとの思いは参加者全員の気持ちではなかったか。ここではほんの一部の内容を載せる。

☆講演要旨

性教育の今日的課題として、家庭や地域社会の変化から

- ① 規範意識の消滅
- ② アイデンティティが拡散
- ③ 自尊感情が育ちにくい

という3点が挙げられる。そこで、改めて性教育の概念を整える必要がある。性教育は単にSEXでは対応できない内容であり、性とは、身体的、生理的男女の違い、心理・精神、性の傾向等非常に幅広い学問。一方教育とは、家庭、学校、地域、職場などいろいろな場面での機能があり、その中で学校での教育は、法則に従って他人に教えるという特性から目標が大切。生涯学習の基礎的、基本的な学習となるものである。

性教育はセクシャリティ・ジェンダーの学習であり、教育の目標「人格の完成」を目指すうえで欠くことのできない学習といえる。

性教育の目標を考えた場合、人格の完成から、個人としてのあり方＝性自認と社会の一員としての私、つまり、対人的私と組織的私の3つの目標があり、それらがきちんと捉えられて内容が組み立てられている

か見直す必要がある。これまでの性教育では、対人関係があまり盛り込まれていないと思われる。

人はなぜ他者とのかかわるのか、かかわるを得ないのか、ある実験では、完全に外界から遮断された中で、睡眠食事は自由に取れる状態で3日3晩でたいていの人が耐えられなくなったという。人間は、何らかの外界とかかわらざるには生きられない動物であるということがわかる。群本能があるという人もいる。本能の視点から考えると人間が他の人間とかかわるのは、心理的快感欲求（群本能）であり、承認・受容・賞賛されることが快につながる。男女関係は心理的信頼関係がないと生理的快感が得られない。中には、心理的信頼が得られていないのに生理的快感追求をしてハラスメントをしてしまうケースもある。

豊かな人間関係の育成を考えた場合、性教育が求められているものは、個人と個人の心理的結び付きをうまく進めるためにはではないか。関わり方のスキルのひとつ、言葉かけが今の子供たちは苦手である。新しい言葉が数多く使われているがそれらには豊かな情緒は入っていない。ボディランゲージもふくめ、上手な話し方のできる子を育てることが求められている。

さらには、相手の立場から考える、つまり思い遣りや相手が不快に思ったりいやにならないようなマナー・エチケットの学習の仕方の一つとして、総合的な学習の中で、ロールプレイやディベート、モデリングなど実践的な学習をしていくことも必要である。

1. 公開授業概要

日時 平成14年10月25日（金）9・10時限
場所 都立世田谷泉高校 調べ学習室
授業者 東京都立世田谷泉高等学校教諭
榎 茂喜 光森 佐和子
クラス 2年次Ⅲ部生 必履修選択
生物ⅠA（24名）・日本史A（15名）
授業形態 合同授業 ティーム・ティーチング
助言者 田能村教育問題研究所
黒瀬 忠生 先生
参加者 会場校教職員を含め23名

2. 教材として取り上げた理由

現代社会では様々な結婚観があり、法律上の解釈を別にするとも「結婚」の意味するものは漠然としている。しかし「結婚」が多くの人にとって人生の重要な節目であることは間違いない。また、ヒトが進化の過程において直立二足歩行を獲得し、背骨や骨盤が変化し、生殖や生活様式の変化がみられた。他の動物とは異なる、太古から続いている「結婚」は、私たちにとって非常に身近な生活文化・社会制度であり、これを取り上げることは歴史的・科学的な見方や考え方の育成を目指した主題学習の題材として適当であると考えられる。結婚制度が当時の国の制度や人々の意識、経済状況と深い関連性を持つことを考察することで歴史的思考力を培い、また「結婚」という観点から自己の将来の生き方に思い至らせる目的で本教材を取り上げた。

3. 本時のねらい

本時は2時間構成の主題学習として扱う。はじめにブレインストーミングの手法により、「結婚」に関する生徒の意識を顕在化させる。

次に生物学的見地から、他の動物のカップリングとの比較を通して人間の「結婚」について扱う。また、わが国での「結婚」制度の歴史的な変遷を取り上げ、結婚制度とその時々々の社会の関連について考察する。

生徒の資料分析や歴史的・生物学的な基礎的知識の習得を通しながら、家庭や社会の一員として現在及び将来の生活において、諸問題に対し適切な意志決定ができることをこの一連の授業のねらいとしている。また、WHOにより示されているライフスキルのうち、クリティカル的思考（情報や経験を客観的な方法によって分析することができる能力）及び効果的なコミュニケーションスキル（言語及び非言語によって自分を表現できる能力）のトレーニングという面もある。

学習指導要領の関連分野は「日本史A」の「(1)歴史と生活」の「ア 衣食住の変化」「ウ 現代に残る風習と民間信仰」であり、「生物ⅠA」の「(2)生物としての人間」の「ア ヒトの特徴」と「(4)親から子へ」の「ア ヒトの一生」である。また、性教育では「家庭や社会との関係」の「結婚観」と「家庭における男女の役割・性役割」と関係が深い。

4. 学習の流れ

☆日本史A（計4時間）

江戸幕府の成立・江戸時代について調べる
結婚について考える・・・本時

☆生物ⅠA（計7時間）

ヒトの進化・頭骨と脳容積の変遷（実習）
背骨の変化とヒトらしさの発現
結婚について考える・・・本時
生殖とライフサイクル

5. 本時の指導展開

	学習項目	学 習 活 動	備 考
導 入	自分の中の「結婚」のイメージ	○「結婚」から連想することば・ことがらをワークシートに記入する。 ○「結婚」の、メリット・デメリットについて、自分の考えをワークシートに書き出してみる。	○ワークシート1 ○資料 「大事なお知らせ」 ○ワークシート2
展 開	「結婚」の生物学的意味 日本の結婚制度の歴史 奈良時代の「結婚」 江戸時代の「結婚」 明治時代の「結婚」 現代の「結婚」 「してみたい結婚」	○他の動物の生殖について講義を聴き、カップリングの方法、オス・メスの役割について理解する。 ○講義を聴いて分かったことをワークシートに記入する。 ○奈良時代～現代の結婚制度について講義を聴き、その形態がどのように変遷してきたかをワークシートに記入する。 ・「通い婚」の形態についての講義を聴き理解する。 ・江戸時代の結婚についてのビデオを見て、当時の合理的なしくみを理解する。 ・「離婚率の変遷」のグラフをみて、いつの時代のものか予測する。必ずしも、離婚増加が現代の風潮ではなく江戸時代に多かったこと、明治時代になって減少することをグラフから読みとる。 ・講義を聴き、家制度存続を目的としてつくられた明治時代の民法が「結婚」をどのように変化させたかを理解する。 ・戦後、経済成長が重視され男性は会社中心の生活を送り、女性は家を守るという結婚観が広まったことを理解する。専業主婦数の推移をグラフから読みとる。 ・現代社会では晩婚化・未婚化が進んでいることをグラフから読みとる。 ○「結婚」が時代や社会によって形態を変化させていること、その変化が当時の国家の体制、社会状況や経済的要因と関連していることを理解する。 ○自分がしてみたい結婚、してもいい結婚について考える。またグループでそれぞれの考えを出し合い発表する。	○ビデオ 「生き物地球紀行」 ○ワークシート3 ○ワークシート4 ○ビデオ 「万物創世記」 ○グラフ 「離婚率の変遷」 ○資料 「明治民法」 ○グラフ 「専業主婦数の推移」 「平均初婚年齢の推移」 「世代別未婚率の推移」 ○ワークシート5 ○発表用紙
ま と め	様々な結婚観	○発表を聴いて、気が付いたことや感想をワークシートに記入する。 ○授業の感想や「結婚」に関することがらで、気になることやこの先調べてみたいことなどをワークシートに記入する。	○ワークシート6 ○ワークシート7

※ 指導上の留意点

- ・生徒の家庭の実態に立ち入るような発問をしないなど、プライバシーの保護に配慮する。
- ・「結婚」について偏った考え方に陥らないよう、また価値観の押しつけにならないよう人権尊重の見地から指導する。

6. 授業の様子と生徒の感想

世田谷泉高校は平成13年度に開校した、チャレンジスクールと呼ばれる三部制ととる定時制総合学科の単位制高校である。入学者選抜に調査書も学力検査もないため、多様な生徒が集まっている。中には中退者もいるが、生徒の多くは不登校経験者である。また、家庭に複雑な事情を抱えている生徒も少なくない。そして、チャレンジスクールに来る生徒の特徴として、人間関係をうまく構築できない生徒が多いことがあげられる。そのため、多くの授業で少人数編制・習熟度別編制・チームティーチングなどの手法がとれている。また、単位制の総合学科高校であるので、生徒の興味・関心に応じて学習することができる選択科目が多く用意されている。さらに、専門の担当者が常駐しているカウンセリング室やガイダンス室などがあり、生徒相談にも力を入れている。

今回の授業は、講義形式とグループワークをまぜながら、二人の教員で進めていった。性に関する事柄や今回扱った「結婚」については、複雑な家庭問題を抱えている生徒の中には嫌悪感や拒否反応を示す生徒もいるのだが、大多数の生徒にとって身近な課題であるので、興味を持ち学習を進めていた。グループワークでは活発にコミュニケーションをとりながら、意見をまとめていた。また、授業の中の「どんな結婚がしてみたい？」の発表を聴いて、気が付いたことや考えたことをワークシートに記入させたところ、多くの生徒が、自分の意見と他人の意見を比較することができていた。以下にその代表的なものを生徒の原文のままあげる。

- ・それぞれの意見を聞いてみんな個々の希望があった感心した意見もありました。
- ・けっこうみんなポジティブな考えも持っている事が分かった。やっぱりみんな若いから、ある程度の理想を持っている事が分かった。

ら、ある程度の理想を持っている事が分かった。でも、まだみんなまだ結婚に対しての実感を持っていない事が分かった。

- ・みんな結婚に対していろんな考えとか理想があると思った。でも結局はみんな結婚することによって幸せになりたいと思っているんだと思いました。女の子の意見は“経済力”にけっこうこだわっていると思われる。がんばれ日本男児！！
- ・まったくちがうかんがえかたをする人がけっこういましたが、わかるぶぶんもあります。とても、夢だなと思うかんがえの人が、あれはないのではと思う。結婚はしてみないとわからない！結婚をしたくないと言う人も、きょうみないと言う人も。
- ・皆、以外と深く考えてるんだなあと思った。理想と現実は違うと、つくづく思ったよ。
- ・みんな人それぞれ結婚についての考え方はちがうんだなあと思いました。

授業の最後にワークシート書かせた生徒の感想では、単に知識を得る授業ではなく、今回のような他の生徒の考えを知る事の出来る授業に興味を持ち、楽しんで学習をしていたことがうかがえる。以下に代表的なものを原文のままのせておく。

- ・まだ結婚についてはまだ興味はありませんが今日の授業でだいぶ参考になりました。
- ・もっと時間があればお互いの意見などを交換できるのではないかと思います。動物も人間と同じような部分も持っているけど違うところも持っている。結婚ってなに！？結婚したい！！
- ・結婚生活にはどんなことがあるのかわかった。多くの苦楽があるんだなあと思った。
- ・みんないろいろビジョンがあってそれをかきまみることができて楽しかった。先生たち（キコン者）の意見を参考になってよかった。自分も意見があるようにみんなの意

見もあってたのしかった。こーゆーじゅぎょうはもっとあってもよいと思う。

- ・いろいろな視点から『結婚』を見れて良かった。結婚って言葉にするのは簡単だけど、生まれも育ちも違う2人が生活していくものだから本当に奥が深いものだと思った。幸せな結婚ができますように。
- ・結婚ってむずかしいけど愛し合った二人がいればなんでものりこえていけるう…
- ・今日、結婚について考え、勉強したけど、結婚については、今回初めて考えたわけではなくて、以前から考えていたりしてたくらい、小さい時からあこがれていたものなので、早く結婚したいです。みんなの意見をきいてみて、興味のない人もいるんだなあと思って、びっくりしました。
- ・けっこんはこれだってゆう答えもないし、自分のいしぢゃなくて相手の意志もあるから大変だ。

7. まとめと今後の課題

高等学校では『性教育』の目標として以下の3点があげられる。

- ①男または女としての自己認識を確かにさせるとともに、異性に対する認識を深めさせる。
- ②人間尊重の精神に基づいて男女の人間関係を築くことができるようにする。
- ③家庭や社会の一員として生きていくうえで必要な人間の性に関する基礎的・基本的な事項を習得させ、現在及び将来の生活において、性にかかわる諸問題に対して、適切な意志決定ができるようにする。

これらの目標を1つの教科・科目の授業で行うことは不可能であり、学校の教育活動全体で計画し実施して行かなくてはならないものである。しかし、性教育は保健体育や生物で扱うものだと考えている教員も多く、教

員の問題意識が低いのが現状である。性教育の目標の達成のためには、学校教職員の一致した指導体制と性教育の教育課程の作成が必要である。今後は、生徒に対する指導だけではなく、校内研修などを通して教職員の意識を高めていくことも重要になると考える。

また、学習の効果をより高めるためには、総合的な学習の時間の活用や複数教科での横断的な学習活動も必要であると考えられる。今回初めての試みとして、性教育の授業として日本史と生物との合同授業を行った。このような他教科との合同授業は、1つのトピックスをより総合的・横断的に学習することができる。さらに、性に関する事項を多面的に扱い、複数の教員で学習をサポートすることにより、ライフスキルトレーニングの効果を一層高めることが期待できる。

WHOは、1994年にライフスキルの主なものとして次の5つの領域を挙げている。

- ①意志決定および問題解決スキル
- ②創造的思考およびクリティカル的思考スキル
- ③コミュニケーションおよび対人関係スキル
- ④自己認識および共感性スキル
- ⑤感情対処およびストレス対処スキル

これらのライフスキルをトレーニングすることは、生徒の自尊感情の育成に大いに役立つと考える。地域社会や家庭での教育力が低下していると言われている現代では、学校教育の場での人間教育が重要となってくる。より多くの活動を通して生きる力を育むことが大切であると考えられる。

今後は、学習内容や指導方法などの研究だけではなく、今回の研究を基礎として、複数教科・科目との連携や合同授業などのクロスカリキュラムの研究と、ティームティーチングのより効果的な活用方法についての研究を進めるつもりである。

「結婚」について考えてみよう

組 学籍番号 氏名

3. 他の動物と「ヒトの結婚」の違いについてまとめてみましょう。

1. 「結婚」から連想されることば・ことから書き込んでみましょう。
(関係の深いものは線でつなげましょう)

結 婚 ———— 結 婚

2. 「結婚」のメリット・デメリットを調べてみましょう。

メリット	デメリット

4. 日本の結婚制度の歴史についてまとめましょう。

○奈良時代

○江戸時代

○明治時代

○現代

5. 「どんな結婚をしてみたい？」

どんな人と？ どんな生活を送る？ どんな家庭をつくる？ など・・・

○「どんな結婚をしてみたい？」が記入できたら、グループで発表用紙に結果をまとめてみましょう。

6. 「どんな結婚をしてみたい？」の発表を聴いて、気が付いたことや考えたことを記入しましょう。

7. 今日の授業を受けた感想を書きましょう。

「親と子の関わり方」

——子育ての過去・現在・未来——

東京都立小金井北高等学校長 小泉 功

I 子育ての過去・現在を探る

1 戦後の教育

(学校教育、青少年育成、性教育関係)

1) 昭和20年代

昭和21年11月3日 日本国憲法発布

昭和22年3月31日 教育基本法制定

この前文に、「民主的で文化的な国家を建設して、世界平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は根本において教育の力に待つべきものである。

われわれは個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にして、しかも個性豊かな文化の創造を目指す教育を普及徹底しなければならぬ」とある。

昭和22年3月に学習指導要領一般編が公布され、さらに各教科ごとの学習指導要領が公布された。

戦後の新しい教育制度が成立した。

①ホームルームの時間

教科とまらない分野の教育として小学校では自由研究、中学校・高校ではホーム・ルームが取り上げられた。しかし、昭和24年頃まではカリキュラム作成が主たる実践問題となって自由研究やホーム・ルームの問題まで研究が広がらなかった。

②道徳教育の起こり

昭和26年になると、刑法犯少年の補導人員が第1次ピークを示したが、そのような状況の中で、昭和25年には道徳教育の必要性が論じられるようになり、昭和26年文部省は中央教育審議会の答申に基づいて「道徳教育のための手引書

要綱」を発表した。

③社会科が設けられる

従来の修身、公民、地理、歴史がなくなり、新しく社会科が設けられた。社会科については、特に、人間関係を中心に扱う教科として道徳的心情の培養と習慣形成に努めるとともに、道徳的な理解力や判断力を育成することとした。これは、アメリカの「バージニア・プラン」の翻訳プランといわれた。また、それまで試みられていた自由研究やホームルーム経営は、「特別活動」として組織されるようになった。

2) 昭和20年代後半～昭和40年代前半

昭和33年に、「道徳」が特設され、小学校では「生命を尊び・・・」「自他の人格を尊重」、中学校では、「生命を尊び・・・」「異性関係の正しいあり方をよく考え、健全な交際をしよう」との性に関する内容が取り上げられた。

3) 昭和40年代後半～60年代前半

昭和40年代に入ると性解放の風潮が一段と高まり、ピンク映画が次々と制作され、男性雑誌は競ってグラビアに女性ヌードを掲載するようになり、青少年の犯罪、非行は戦後第2次のピークになった。昭和40年後半になると、再び性教育の必要性が強調されるようになり、国会でも取り上げられた。また、昭和43年小学校、44年中学校、45年高等学校の学習指導要領が改訂され、それぞれ性教育の内容が取り上げられた。

昭和47年、我が国では最初で唯一の文部科学省認可を受けた財団法人日本性教育協会が設立され、性教育に関する幅広い情報提供、性教育夏期セミナー（後に全国性教育研究大会に発展）の開催、性科学会議その他の啓発事業などを行うようになった。

昭和50年3月衆議院予算委員会で、

市川房枝議員が「ここ2・3年来の特徴として、女子高生、主婦などの売春事犯が目立ってきているが、文部省は学校教育・社会教育で性教育をどうやっているか」との質問をした。時の永井国務大臣が「性教育という角度から教育を強化し、その上に基づく道徳的価値観をつくっていくよう一層努力しなければならぬ」と答えている。

昭和61年松本市で風俗営業に従事していた外国人女性がエイズの抗体検査で陽性であることが判明、62年神戸市で初めて日本人女性のエイズ患者を確認、神戸市を中心にエイズパニックと言われる状況が発生、厚生省は62年を「エイズ元年」と宣告した。

2 歴史が語る、子育ての変遷

1) 子どもの捉え方いろいろ

①お父さん、お母さん、子どもとは何？

物、財産、自由になるもの。親のもの、国のもの、神のもの、子供自身のもの、誰のもの。

②先生、子どもとは何？

感受性が強く柔らかい。物事を覚えるのが早い。失敗を恐れぬ。いつでも夢がある。負なるもの、未熟なもの、未完成品、間違ふもの、失敗するもの。

子どもは、地球の文化を未来に繋ぐ夢の使者、それを磨いて送り出すのは、今に生きるすべての大人の使命である。

2) 時代に合った子どもとのふれ合い方、接し方、関わり方

自我が確立され、自分を一人の人間として見つめることができるようになった時に「自分はどのようにここに立っているのだろう。」と疑問が沸いてきた時に、親の「ヒトゲノム」と育児（育自）による影響があったことを多くの若者が気づいていたと思われる。

高校3年生へのアンケート結果の中

で、「あなたの人間形成で一番影響のあった人を一人あげてください。」の答では、80%の人が「母親」あるいは、「父親」と答えている。

そのためには、親となったときから、子供と一緒に育児（育自）・しつけの学習を始める。そこから、子供について理解を深められ、子どもの成長に合わせて、物事の価値観、人間としての生き方、あり方などが学習（共育）される。子育てにはについて専門家などに相談したり、親子会や地域・学校の研修会に参加して技を磨いていくことが親としてのつとめであると確信する。

学校・地域・家庭の3教育が1枚岩になって取り組むことも大切であるが、まず、親が、成長しなければ子どもは育たないと言える。そして、「未来へ素晴らしい使者」として送り出すことである。

全性連理事長の田能村祐麒先生が言われる、子供を導く大切な親子のコミュニケーションの原形がここにある。

3 子どもを育てる「育自」「共育」現状は

1) 幼児期の子育て

2) 子育てと小学校、中学校、高等学校における家庭との関係

3) 高校進学96%を踏まえると、高校卒業は大人として、完全といえるのか。

4) 高校は、学習することは当然ながら、健全育成にも重点を置くのか、何を学ぶ所か。

5) 学校週5日制は子育てに有効か。

6) 親の子育ては、どうか、個人より地域などの集団で関わるのか。

東京都の「心の東京革命」の、心の東京ルール7つの呼びかけ)

地域の関係諸機関との密接な連携が重要である。地域青少年育成委員会、スポーツサークル、健康推進クラブ、PTA、同窓会など。

4 ほめること、叱ること

お父さん、子どもをうまく叱れますか。
子どもと向き合っていますか。

『心の東京革命』

7つの呼びかけ「心の東京ルール」

- ①毎日きちんとあいさつしよう
- ②他人の子どもでも叱ろう
- ③子どもに手伝いをさせよう
- ④ねだる子どもにがまんさせよう
- ⑤先人や目上の人を敬う心を育てよう
- ⑥体験の中で子どもをきたえよう
- ⑦子どもにその日のことを話させよう

II 青少年の現代病？「ひきこもり」

親もびっくり、家ではそんなこと考えられない、「社会的なひきこもりとは？」自宅にひきこもって、社会参加をしない状態が6ヶ月以上持続しており、精神障害がその第1の原因とは考えにくいものとされている。

その多くは、不登校から長期化する。そのきっかけとしては、受験の失敗、就労の失敗など何らかの「挫折」体験、内向的で家庭では「手のかからない良い子」とみられがちだった男性に多い。しかし、特定の性格傾向や家庭環境との関連性は必ずしも明らかではない。殆ど外出もしないまま自室に閉じこもり、昼夜逆転した生活である。強迫症状、対人恐怖症状などの精神症状を示す場合も、時には、家庭内暴力や自殺未遂に至ることもある。放置した場合、自然な回復は期待できない。

「ひきこもり人口」は、低くみて、50万人から100万人、1970年代から徐々に増加している。不登校人口の一直線の増加と関連があるのでは。1000万人になるとの説もある。

不登校の2/3が長期的な不適応状態にいたり、その大半が「社会的引きこもり」となる。まさに増加の一途をたどり、危機的な状態になるだろうと、佐々木病院精神科の斎藤

医師は訴えている。

1 基本的な心構え

- 1) 手をかけずに目をかける（北風より太陽で、干渉を避けて見守る）
- 2) 覚悟と根気（ねばり強さ・一度で分からないのは、当たり前、出来ない、理解しないと分かったら、すぐに別な方法を考える勇気を。）
- 3) 信じて待つ（待つことの積極性）
- 4) 怠けとみなさない（ゆっくりでも知っ
「子どもは、地球の文化を未来に繋ぐ夢の使者、それを磨いて送り出すのは、今に生きるすべての大人の使命である。」

ていることが出来るまで待つ、単に頭の中に覚え込ませたしつけは有害無益。）

- 5) 両親の協力態勢（治療の成果は家族の努力に比例する、愛情よりは、親切を。）
- 6) 振り回されない構え（受容の枠組みをしっかりと設定する。）（犯人探しや裁判はしない。根ほり葉ほりは対話ではない。）（後悔ではなく反省。親は子の鏡、子は親の鏡。）（犠牲的精神に陥らない。まず、お母さんが精一杯に生きること。）

（両親がそれぞれの楽しみを確保する。親の心の広さが子に響く。）

（子供を思うゆえの意欲よりは、普通生活の欲求を大切に。）（環境の変化は慎重に、迷ったら現状維持）

7) まずやってみせること

「やってみせ、やらせてみせて、ほめてやらねば、人は動かじ」山本五十六

寝ていて人を起こすなかれ。平素からやってみせ、やらせてほめる、わざとらしくなく。

2 金銭管理 「消費は、社会参加の第1歩」

- 1) 小遣いは十分に（本人と相談して、月額等を決める。）（決めた額は厳密に守る。ダメなものはダメと言う。）（余分な出費は「前借り」。アルバイトをはじめても渡す）

3 コミュニケーションの回復

1) 相互性が重要

(共感的理解)(まず挨拶)(会話を増やす)(態度ではなく会話を増やす。)

(メモによる伝言も)(あくまでも正攻法で分かりやすい言動を心掛ける)

(本人からの訴えは、遮らずに最後まで聞く、人間は耳は2つ、口は1つ、話すより2倍で聞くこと、しかし、いいなりにはならない)

2) 話題の選択

(話の内容より「話したい」意志を示す)

(不自然さをおそれない)(将来の話をしなない)(学校の話、仕事の話も禁句)

(時事的な話題、趣味の共有)

4 暴力への対処法「対抗させない・・身体接触は禁止、力で対抗しない」

1) 初期の暴力(刺激しない、対話を心掛ける)

2) 慢性化した暴力(家庭の密室化を避ける)

(警察への通報も有効: 第3者の介入「呼ぶ勇気」を)(避難の有効活用)

: 暴力拒否を貫く・見捨てられ感を与えないように注意

: 専門機関との連携・逃げるタイミングと帰るタイミング、

: 1週間ぐらいみる。連絡を取っておく。

5 依存症

1) 飲酒

(手に入りやすく、止める人もなく、また、酔ってからだと、親兄弟でも抑えが効かない)

2) 喫煙

(何時でも、どこでも喫煙が出来、量が増え栄養素が取入れにくく、やせてくる)

3) 薬物

(ちょっとしたきっかけで薬物依存症になりやすく、一度依存症になると元に戻るのには困難である。)

III 薬物乱用防止に向けて

文科省スポーツ・青少年局学校健康教育課が平成14年3月に行った、薬物に対する意識等調査報告書。文部科学省から出された高校生用薬物乱用防止教育パンフレット。社団法人全国高等学校PTA連合会から出された保護者向けの薬物乱用防止パンフレットなどを読んで対処してほしいと思います。

特に、文科省の「Q&A」は的を得ていると思います。

しかし、現在乱用中の者、乱用していないが持っている者、買ったり、もらったりしたばかりの若者に対して、

①大人は、勇気を持ってやめさせる努力をすべきである。

そのためには、若者に薬物を売りつけられた人、または、もらった相手の人に

②本人にきっぱりと「返します」と言わせることです。

それでもだめなようであれば、

③「病院に行きます。」と言わせる。

これで大体の相手は受け取ると思うが、それでもダメなら、勇気を出して

④「警察や少年相談所に行きます」と本人が言うことです。

なおも脅かしながらしつつこく言われても、必ず返すことです。

⑤お金を返されなくても、関係を切ることが大切です。

もらったままにしておく大変なことになります。犯罪となるのはもちろんだが、次から次へと相手は追ってくるし、自分も使ってみようとする事にもなる。

参考文献等

- ・子供のほめ方。しかり方 著者三川俊樹
- ・講演 精神科医 斉藤 環氏 資料
- ・講演 全性連理事長 田能村祐麒氏 資料
- ・心の東京革命「心の東京ルール」東京都

〈はじめに〉

東京都高等学校性教育研究会は、1981年から21年間にわたり、東京都幼・小・中・高・心の各性教育研究会と合同で、児童・生徒の性意識・性行動を3年ごとに調査し報告書を作成してきた。

今回も都内高等学校の生徒（男子1510名、女子1554名）を対象に調査を行った。アンケート形式の実態調査には限界があり、正確さという点においては問題がないとはいえないが、学校所在地や校種が偏らないよう、調査方法にも十分配慮しながら実施した。

8回にわたる調査の積み重ねから、高校生の性意識と性行動の現状を多少とも捉えることができたと自負している。

〈調査のねらい〉

生徒たちの性意識・性行動に大きく影響を与えた環境条件は多様である。例えばコミック本の性表現と描写、アダルトビデオの普及、テレクラや援助交際、セックス産業の多様化、そして、インターネット等による性情報の広がりが増えらる。これらのものが生徒の性意識や性行動に拍車をかけることになり、さらに大きく変容しようとしている。また、社会の変化に影響を受けやすい高校生が、このような状況の中で性に関してどのような意識を持ち、どう感じながら行動しているのか、様々な実態を把握するとともに、生徒理解を深めることが必要である。そして、教材として調査結果をフィードバック、活用しながら生徒に討議させるなど、人間の性の多様さや価値観などを気づかせ、さらに性に関する発達課題の達成や克服に役立たせたいと考える。

〈四半世紀の歴史〉

1981年に東京都小・中・高等学校性教育研究会から発行された、第1回「児童・生徒の性意識・性行動」の調査報告には、生徒の身体の発育・発達やそれにもなう性的成熟が促進され、性意識が積極的・開放的な傾向にあり、併せて性行動も活発化し、性非行の増大や低年齢化が大きな社会問題となってきたと記されている。また、学校内における暴力行為や破壊行為などが多発し、その発生の要因を考えると、性的な問題傾向の増加が潜在していることが予測され、その実態を明らかにする必要もあった。

時代背景を探ると、1970年代後半からインベーダーゲームが大流行し、ゲームセンターや喫茶店などは毎日のように賑わっていた。この頃、ディスコがブームになり、若者たちは毎日のように繁華街へと繰り出し、解放感に浸っていた。

1980年代に入ると、校内暴力、家庭内暴力が急増し、社会の目は学校や家庭に向けられるようになった。そして、ノーパン喫茶の急増に代表されるように性の商品化が進み若者たちの性に対する価値観も変容していった。

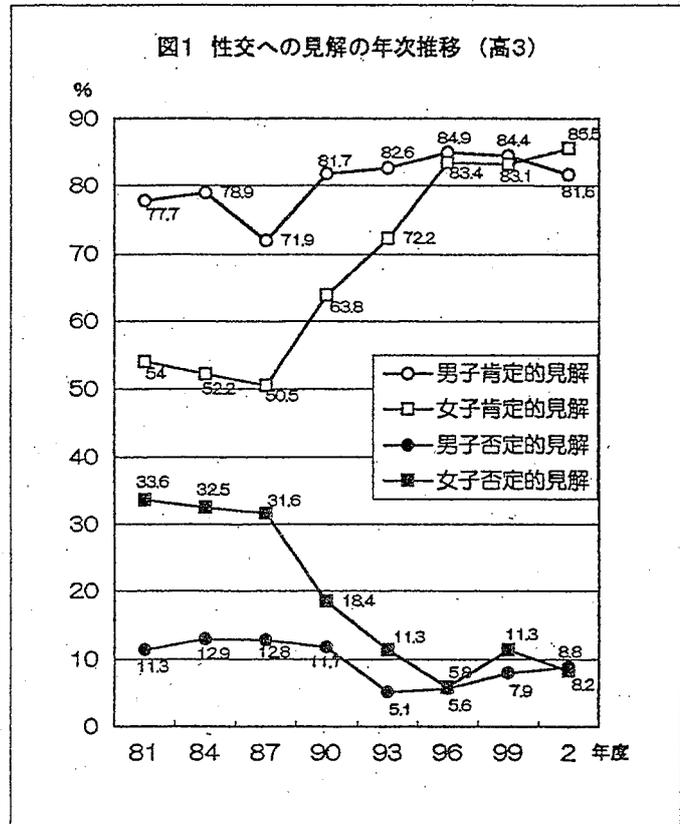
1990年代には、さらに社会的な性規範もゆるみがちになり、テレクラ・デートクラブ・そして援助交際等が溢れ出し、青少年への被害も数多く現れた。このように歯止めがかからない状態のまま21世紀に入り、流れの速い社会の渦に巻き込まれるように性行動の低年齢化が加速し始めた。調査結果にもあるように、女子の性に対する積極性が顕著に現れたことが、性行動の場面で証明されたといえる。

—性交への見解—

81年度当初、性交についてどう考えるかという質問に対して、否定的な見解は、男子11.3%、女子33.6%であり、肯定的な見解は、男子77.7%、女子54.0%となっている。

(図1) それから12年隔てた93年度調査の否定的見解をみると、男子5.1%、女子11.3%と男女ともに減少傾向を示したが、特に女子の見解は3分の1と激減した。また、この項目のなかで「愛情が深まれば性交してもよい」が男女とも40%を超えているが、まだ未熟で若い高校生にとって、この見解が多くなるのは当然であろう。しかし、本当に“愛情”という本質を理解しているのだろうか疑問である。

96年調査の肯定的な見解をみると、男子84.9%、女子83.4%とほぼ同じラインに近づき、女子において肯定的見解が15年間で約30%も上昇した。この婚前性交への許容の見解は、過去最高となった。また、「お互いが納得できれば」という項目がこの調査から加えられたが、男子35.3%、女子33.3%と共に高い数値が現れた。これは“愛を確かめ合う”傾向が薄くなり、“なりゆき次第”で性交におよぶケースが増えたことで、これでは適切な判断とはいえないだろう。



(図2) (図3) (図4)

このように21年間の流れをみると、もともと男子の「許容見解」の立ち上がりが高く、過去の調査では約70%~80%の間で推移していたが、女子の性交に対する許容が調査ごとに上昇し、2002調査ではついに男子を超えて85.5%と逆転し、まさに考え方として性の中性化の時代が到来したようだ。

—キス経験—

81年度調査では性的関心において異性とのキス経験は、男子38.9%、女子33.2%となっている。当時、男女ともに約30%~40%の者が何かのかたちで経験をした。当然、高校生にもなればキス欲は性行動の段階で多くなっていく世代であろう。また、高3での累積数値は、90年度調査で男女ともに減少し性差も接近したものの、調査を重ねるごとに上昇している。

96年調査において、全学年で女子のキス経験が男子を上回った。そして、99年にはその傾向のままに数値が現れ、この頃から高校生が制服姿で公園や街角、さらには電車のなかで抱き合う、キスをするといった姿をしばしば目にするようになった。

02年では男子が若干減少し、女子は64%と過去最高値を示し、3人に2人が経験したことになる。このことは、女子がキスに対して寛容になったと考えられるが、キスを強要された場合も含まれると推測される。(図5)

図2 性交への見解・項目の比較 (高校全体)

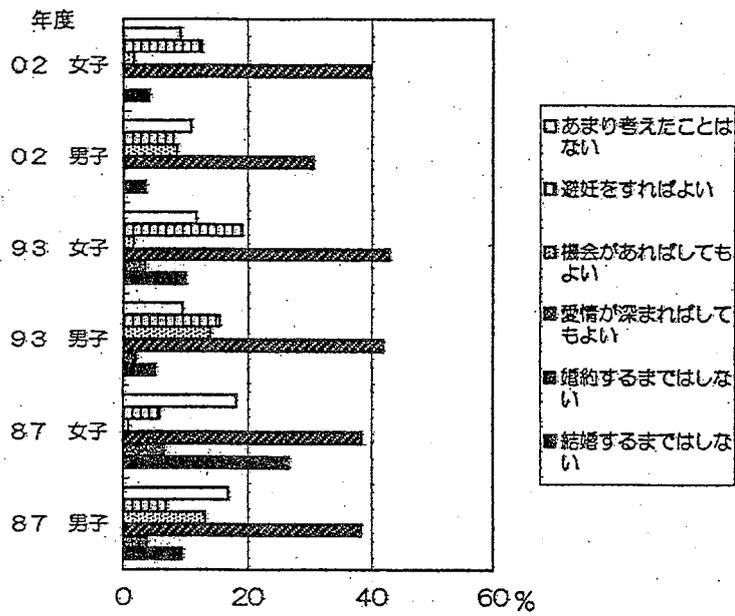


図3 性交への見解・内容 (2002年度、高3)

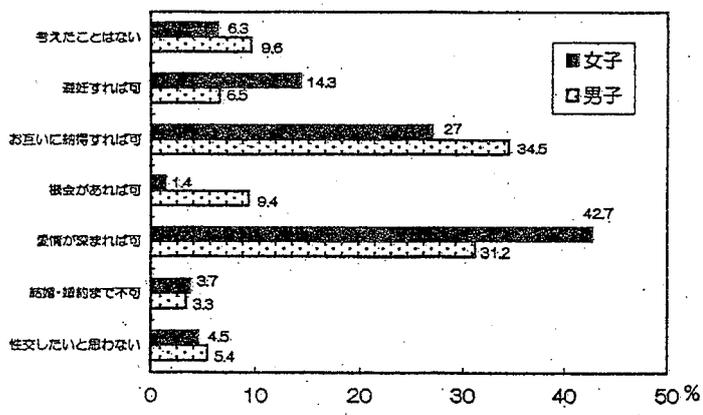
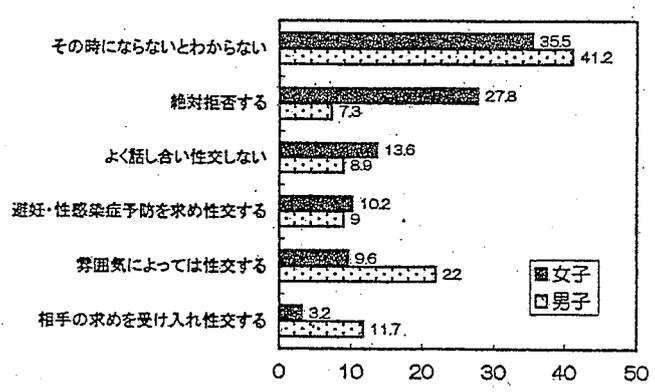


図4 性交に対する意志決定の基準 高校全体 (%)



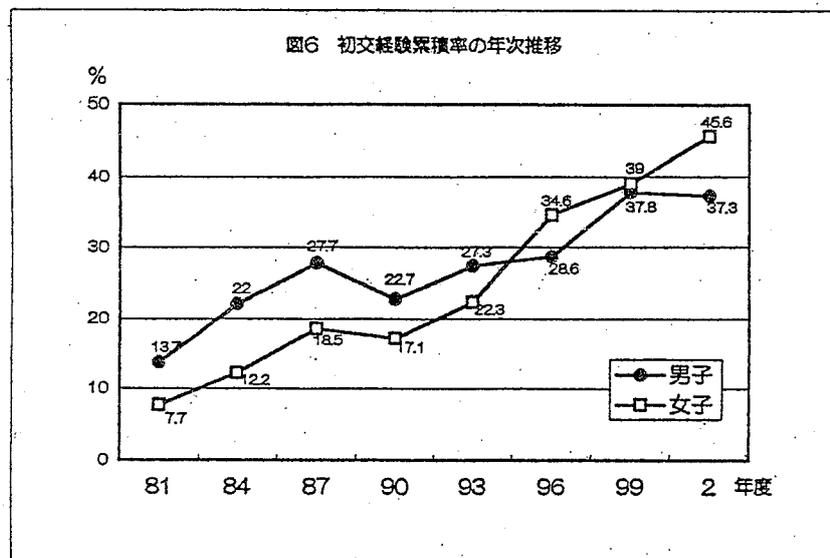
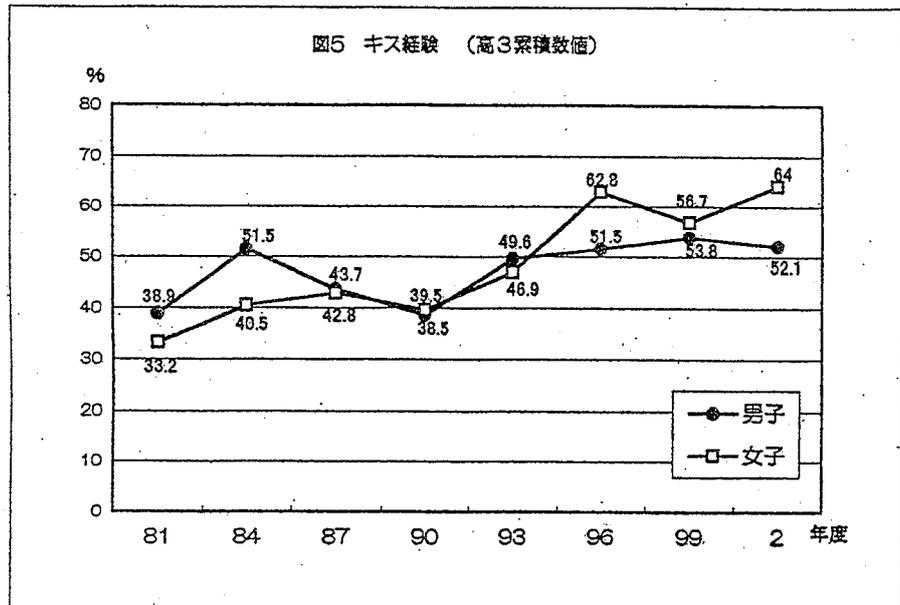
—性交経験—

81年度当時の性交経験累積率をみると、男子13.7%、女子7.8%という数値が残されている。また、初交相手の身分をみると、男子は中学生20.3%、高校生41.9%、大学生等12.2%、社会人等8.1%である。女子は中学生2.4%、高校生40.5%、大学生等16.7%、社会人等23.8%となっている。特徴として男子は、高校生が主であるのに対し、女子は自分より年長である大学生や社会人を対象としていることが現れている。

以後の調査で男子は81年度～93年度にかけて、13.7%→22.0%→27.7%→22.7%→27.1%と上がったり下がったりしながらも、全体的にゆるやかに上昇してきた。女子においては、7.7%→12.2%→18.5%→17.1%→22.3%と5回目の調査では81年度の約3倍の数値に昇ってきた。

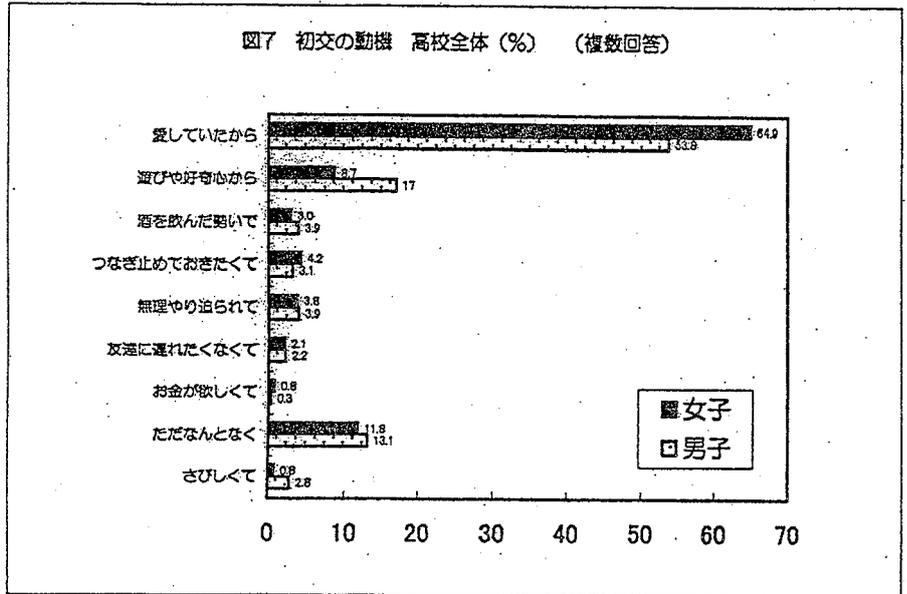
96年度調査においては、男子28.6%、女子34.0%と初交の累積率は男女が逆転するという結果になった。また、特徴の一つとして、初交経験が高校期であることが急増、高校3年の累積率が男女ともに過去最高であり、各学年とも女子の性交経験率が男子を超えたことである。99年度は、男子37.8%、女子39.0%と近差になり、02年度には、男子37.3%、女子45.6%と男子は落ちつきをみせる感はあるが、女子は40%を超え21年間で約6倍という数値を示すことになった。(図6)

初交相手の身分について変化をみると、トップはやはり同じ高校生で、男子54.2%、女子50.7%と共に半数を超えている。そして、女子の初交相手が社会人12.3%となっているが、21年前と比較してみても、初交相手が高校生であることがかなり増加したものの、社会人は約半数に減った。いずれにしても、性交の機会が高校期に多くなっていることが推察される。



— 初交の動機 —

初交の動機ときっかけについては、96年調査から項目に加わったが、3回の調査で大きな流れはみられないため、02年調査を中心に報告したい。質問は複数回答であり、「愛していたから」と回答した割合は男子53.8%に対して、女子の方が64.9%と数値が高く現れた。その反面、「遊びや好奇心から」と回答した割合は、男子(17.0%)は



女子(8.7%)の約2倍に昇る。そして、「ただ何となく」の割合も男女ともに10%を超えている。こうしてみると、男子の方がより性衝動に流されやすい傾向がみられる。また、「酒を飲んで」「無理やり迫られて」は低い数値だが、背景として暴力やアルコールが性行動に関与していることは、見逃せない事実である。(図7)

— 初交のときの避妊 —

初めての性交のとき、避妊をしたかどうかを調査したものである。(表1)

81年調査では、男女とも同じ傾向を示し、「避妊を実行した」は男子38.6%、女子38.9%であり、「避妊を実行しなかった」が男子44.3%、女子44.4%と多く現れた。

87年～96年調査までは、「避妊を実行した」という数値は、男女ともに約52%～62%を推移しながら、99年調査で若干減少したものの、02年調査では男子54.7%、女子56.3%と半数を超えて、数値的には定着した。また、「おぼえていない」という項目は、おそらく避妊は実行されていないと解釈してよいだろう。避妊は知識として知らせる指導も大切だが、相手を思いやる態度やそれを主体的に実践できるような強い意志決定を養うよう期待したいものである。

表1 初交のときの避妊 (全体)

年 度		81	84	87	90	93	96	99	02
男子	避妊を実行した	38.6	45.4	57.9	52.3	62.8	54.8	47.5	54.7
	実行しなかった	44.3	41.2	31.6	34.2	29.3	34.4	37.5	31.3
	おぼえていない	17.1	13.4	10.5	13.5	7.9	10.8	15.0	14.0
女子	避妊を実行した	38.9	39.8	61.8	54.2	63.9	62.0	49.3	56.3
	実行しなかった	44.4	47.8	28.6	36.3	30.8	29.1	40.8	36.2
	おぼえていない	16.7	12.4	9.6	9.5	5.2	8.9	9.9	7.5

※81年調査は、2年生。

〈おわりに〉

2002年度の調査で、性交への質問について「性交したいと思わない」という否定的見解は男子3.8%～5.4%、と若干増えたのに対して、女子6.0%～4.5%と逆に減少している。これは男子の性交への積極的な意識が薄らいだ傾向であるのに対し、女子はその反対を示したものと考えられる。また、その結果として許容見解の数値は、男子は減少傾向を示し、女子は増加傾向を示した。このように性交への考え方はもとより、キス経験も性交経験も同じ傾向を示すようになった。

96年調査を境にして女子の「積極性」や「周りの人に遅れたくない」という意識の現れから数値が急増し、目立つようになってきた。それにしても、ジェンダーフリーということを考えれば、特に危惧することもないのだろうか。まだまだ不透明な部分は残るが、紙面の都合上、他の項目に触れることはできなかった。なお、考察が不十分であったことをお詫びして終わりにしたい。

(※あくまでも図にある数字については、高校3年生における過去の経験累積であり、現在の状況を示しているものではありません。)

私の両国高校での性教育

田原正之

両国高校では、2年生科目保健 第3章 生涯を通じる健康 単元1. 家庭生活と健康 第4章 集団の健康 単元1. 疾病の予防活動 の中で性教育を取り上げています。(1年生は、第1章 現代社会と健康)

今回の私の投稿は、2001年度の性教育の中から(2002年度は1年生をもった関係で) 次の3項目を取り上げました。

1. 性について学びたい(知りたい)内容をアンケートから挙げてみました。
2. 結婚について調査しました。
3. あなたの「性度」をテストする を実施しました。

-
1. については、予め質問項目を用意せず自由に書いてもらいました。結果は以下の通りです。

「性」についてのアンケート集計結果

2年 3クラス 男73人/女42人 計115人 実施日 2001年 4月12日

質問-今、あなたは、「性」について、どのような内容を学びたい(知りたい)と思いますか。いくつでも羅列しなさい。

@有る人	男	38人 (52.1%)	女	31人 (73.8%)
@特になし	男	20名 (27.4%)	女	8人 (19.1%)
@無答	男	15名 (20.5%)	女	3人 (7.1%)

〈主な内容〉 (男38人・女31人中)

- 男:
- STDについて (10人-26.3%)
 - 男性と女性の違いについて (9人-23.7%)
心理・思考、社会・家庭生活の中での男女の役割、男女それぞれの興味について、なぜ男子の方が運動能力が高いのか、愛とは何か。
 - 性欲について (7人-18.4%)
女性の性について、性欲が現れる年齢、性欲を鎮める年齢。
 - 性について (6人-15.8%)
性の意義・性に関する問題、外国での性教育・50年前の性教育。
 - 性交について (6人-15.8%)
 - その他 (3人-7.9%)
性と犯罪、性転換。
- 女:
- 妊娠について (10人-32.3%)
妊娠初期・妊娠と生理、人工授精・対外受精について、中絶について、出産年齢何歳まで、双子(多胎児)について
 - 男女の性について (9人-29.0%)
男女のからだ、成長、男尊女卑・性と家族について、男女の脳について、男性が女性を性の対象に見ていると聞くが本当か。
 - 性転換について (5人-16.1%)
 - 学校の授業内容でいい (3人-9.7%)
 - これから生きていく上で知っておくべき内容 (2人-6.5%)
 - セクハラについて (2人-6.5%)

〈ちょっと考察〉

☆学びたい内容を挙げてくれた生徒は、男子に比べて女子の方が約20ポイント多かった。女子に関心が高いことが伺われた。

☆おもな内容は、男子は-STD. 男女の違いについて-が多かった。

女子は-妊娠について、男女の性について-が多かった。

2. については、以下のような結果が出ました。

「糸吉女婚」について、アンケート集計結果

2年 3クラス 男76人/女44人 計120人 実施日 2001年 5月17日

1. 結婚の意義—あなたにとって、結婚とはどんな意義がありますか。どんなことですか。

- 男
- 協力して家庭を持つ…13人(17.1%)
 - 好きな人と生活できる…10人(13.2%)
 - 安らぎがもてる…8人(10.5%)
 - 新しい人生の始まり・子育てをする・相手を生涯愛すること・他人から夫婦になる・人生で最も大切な時…それぞれ4人(5.3%)
 - 責任を持つこと・一人前の大人になる・生活が変わる・将来を楽しくする・仕事にやる気が出る…それぞれ2名(2.6%)
 - 社会的に認知してもらい、相互扶助の契約…(2.6%)
 - その他
 - 一人ではできないことや、一人では生活してゆくのが大変だったりするのをお互いに助け合ってゆく事ができ、よりよい気分になれる。
 - 結婚は人生の中で最も大切なもの。夫婦で互いの絆が強くなる。
 - 結婚する事によってお互いがかげがえのない存在だという事を実感できる。
- 女
- 好きな人と生活できる…11人(25%)
 - 新しい家族ができる…9人(20.5%)
 - 助け合い、楽しく過ごす…7人(15.9%)
 - 自分の家庭を築く…6人(13.6%)
 - その他
 - 家庭を持つ事によって自分の立場を認識し、自己を高める事ができる。
 - 二人の在り方を親や周囲が認めたという事。
 - 拘束されちゃう感じがするけれど、女は「主婦」になって洗濯とかご飯とかは違うと思う。結婚は付き合っている人ともっとずっといたいと思ったら、結婚しようと思う。だけど、毎日一緒にいるのもな—と思うから、たまに一緒に住むぐらいの関係がいい。仕事は絶対したい。

2. 結婚したいと思う 男 53人(69.7%) 思わない 23人(30.3%)
女 35人(79.5%) 9人(20.5%)

3. 結婚したくない理由は、何ですか。(男23人・女9人中)

- 男
- 関心がない、考える気がない、未だ先が見えていない、勉強が大切なので…7人(30.4%)
 - 一人の方が気楽でいい…6人(26.1%)
 - 結婚した人が幸せそうに見えない…2人(8.7%)
 - やりたいことがあるから事由でいたい。それが達成できれば結婚したい…2人(8.7%)。
 - その他
 - 相手がいなく責任もてない。
 - 一人若い少年のままでいたい。
 - 一人で生活するという事は寂しいけれど、自分の生活を第一に考えているから。
 - 結婚した直後は幸せだけど、いつか必ず愛情なんていうものはなくなるから。裏切られるのは恐ろしい。ちょっとした事で人生がダメになるなら結婚しない方がまし。
- 女
- 今は将来のことで頭がいっぱいだから…2人(22.7%)。
 - 他人のことは信じられない。つかれちゃう。何か嫌なことがあったら相手に当たってしまうから…各2人
 - その他
 - 自分一人精一杯なのに、もう一人のことを考えている暇がない。自分の仕事に打ち込みたい。
 - 大人は信用できないし、下心がありそうで怖い。それに男は結婚すると、性格が変わると聞いたことがある。

4. 子供の数は、何人ぐらいがいいですか(結婚したい男53人・女35人中)

男 2人—28人(52.8%) 3人—10人(18.9%) 2~3人—7人(13.2%) 1人—5人(9.4%) 1~2人—3人(5.7%)

女 2人—20人(57.1%) 3人—10人(28.6%) 1~2人—3人(8.6%) 欲しくない—2人(5.7%)

5. あなたは、男に・女に生まれてよかったと思いますか。

よかったと思う 男 71人(93.4%) 思わない 3人(6.6%)
女 37人(84.1%) 7人(15.9%)

6. 思わない理由は、何ですか 男—人間自体が余り好きでないから。
女—生まれていないので比較できない。
特になし。

女—就職などは、男性の方が有利だから。
たよりになる男子が少ないから。
特になし。

7. 結婚年齢は、何歳ぐらいですか（結婚したい男53人・女35人中）

男	25歳-19人(35.8%)	24歳-14人(26.4%)	26歳-7人(13.2%)	無答2人
	22歳-5人(9.4%)	26~27歳-3人(5.7%)	29~30歳-3人(5.7%)	
女	25歳-10人(28.6%)	28歳-7人(20.0%)	23歳-5人(14.3%)	無答3人
	26歳-5人(14.3%)	24歳-3人(8.6%)	20歳-2人(5.7%)	

〈結果〉

★結婚の意義では一男子は、「協力して家庭をもつ」が17%ともっとも多く、次いで「好きな人と生活できる」「安らぎが持てる」が10%を越えている。
 女子は、「好きな人と生活できる」が20%と最も多く、男子の約2倍であった。次いで、「新しい家庭ができる」20.5%「助け合い、楽しく過ごす」15.9%と、上位を占めた。

★結婚したいと思うか→思う一男子は、70%・女子は、80%であり、女子が男子を10ポイント上回っている。
 →思わない理由は、男女ともに将来（勉強、進路）のことが気になっているようである。

★子供の数では一男女ともに「2人」が、約半数を占めた。日本の出生現状に見合った回答が見られた。（2001年1人の女性が産む子供の数は1.33人である）

★男・女に生まれてよかったかの質問では
 一男子は93% 女子は84%がよかったと答えている。男子の方が約10%上回っていた。（都性研2002年調査では、2年生男子71.2% 女子57.5%）

★結婚年齢は一男女ともに「25歳」が多く、男子35.8% 女子28.6%であった。次いで、男子「24歳」26.8% 女子「28歳」20%であった。

3. は、隔月刊誌であった「現代性教育研究」1994年4月号JASEの広場より
 【あなたの「性度」をテストする】引用しました。
 授業の動機付け、興味付けとした使ってみました。
 結果については、こんなところを注意して指導しました。

※男性であってもマイナス要素、女性であってもプラス要素（このテストで）を持っていること。必ずしも男性はプラス、女性はマイナスではない。斜線の部分を持っているものである。



※これは、ある学者一つの調査であって「性度」の参考にするものである。

あなたの 性度をテストする

指導 相場 均

早稲田大学教授(心理学)

製作 園大井晴策 / 鈴木貞文 / 宮島律子

△男らしさ・女らしさVは、もちろんその時代と社会によって変化します。特に激動する現代の日本で△男らしさ・女らしさVを定義することは、ほとんど不可能といってもいいでしょう。しかし、ある時期と場所を区切って考えた場合、社会の通念としての△男らしさ・女らしさVが存在し、個々の男女が、その価値観をまったく無視して行動できないことも事実です。このテストは以上の観点で、あなたの△男らしさ・女らしさV性度Vをはかる一つの目安として作られたものです。

なお、日本性教育協会では、このテスト結果を全国的に集計して現代日本における「性度」調査を行ないたいと思います。次ページの調査用紙にご記入のうえ、11月15日までにご返送くださるようお願いいたします。

テスト法

次に30項目からなる質問があります。それらを「はい」「いいえ」で答えてください。どうしても決めがたい場合のみ、「どちらとも言えない」に○印をつけてください。

自分の感じた通りを率直に、自然のままに答えてください。

- 1 目が悪くても、眼鏡をかけたくな
い。
はい どちらとも言えない いいえ
- 2 一人で遠くへ旅行してみたい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 3 自動車に乗る時は、助手席に乗る
より自分で運転したい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 4 人前でタバコを吸うのは気がひけ
る。
はい どちらとも言えない いいえ
- 5 将来は他人に従うより人の上に立
つようになりたい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 6 形式より実質のほうが大事だと思
う。
はい どちらとも言えない いいえ
- 7 困ったことがあると親に相談す
る。
はい どちらとも言えない いいえ
- 8 やせたり太ったりすることが気に
なる。
はい どちらとも言えない いいえ
- 9 知らない人でも気軽に話ができ
る。
はい どちらとも言えない いいえ



- 10 失恋したことがある。
はい どちらとも言えない いいえ
- 11 釣銭をもらった時、必ずたしかめる。
はい どちらとも言えない いいえ
- 12 自分の財布の中にくら入っているか知らない。
はい どちらとも言えない いいえ
- 13 おふろに入るのがめんどうくさい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 14 人前に出るとすぐ照れてしまう。
はい どちらとも言えない いいえ
- 15 テーブルの上が汚れているとすぐかたづけたくなる。
はい どちらとも言えない いいえ
- 16 他人から命令されると、する気がしない。
はい どちらとも言えない いいえ
- 17 映画を見たり、小説を読んだりすると、自分が主人公になったように感じる。
はい どちらとも言えない いいえ
- 18 好きな人と嫌いな人がはつきりしている。
はい どちらとも言えない いいえ
- 19 嫌なことがあってもすぐにケロリとする。
はい どちらとも言えない いいえ
- 20 授業のノートなどはきちん取る。
はい どちらとも言えない いいえ
- 21 小さな子どもと遊ぶのが好き。
はい どちらとも言えない いいえ
- 22 もし画家だったら、花の絵を描きたい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 23 恋愛映画よりアクション映画のほうが好き。
はい どちらとも言えない いいえ
- 24 友達とはおしゃべりするより、スポーツをしている方が楽しい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 25 占いとか、おみくじを信じやすい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 26 アマチュア無線で世界の人々と話してみたい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 27 時事問題に興味がある。
はい どちらとも言えない いいえ
- 28 結婚式は華やかに行ないたい。
はい どちらとも言えない いいえ
- 29 暗記することが得意。
はい どちらとも言えない いいえ
- 30 友人と議論するのが好き。
はい どちらとも言えない いいえ

採点法

答えをつけ終わったら、次ページの表に基いて、各々の質問の点数を出し、それを合計してください。
その合計された得点がプラスになれば

〈切り取り線〉

性度テスト調査用紙

この用紙の両面に記入封書で下記にお送りください。この調査は、学術的な目的にのみ使用され、あなたのプライバシーは厳守いたしますので、正直にありのままご記入ください。この全国調査の集計結果は『現代性教育研究』第4号(昭和48年1月発売)に発表いたしますので、あなたの性度と全国調査の結果を比較してみてください。

氏名	男 女	既婚 未婚	歳
住所			
職業		最終学歴	

送り先〒101 東京都千代田区神田錦町3-21 久友ビル
財団法人 日本性教育協会 性度調査係

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計
はい	-1	+1	+1	-1	+1	+1	-1	-1	-1	+1	-1	+1	+1	+1	-1	+1	-1	-1	+1	-1	-1	-1	+1	+1	-1	+1	+1	-1	-1	+1	
どちらとも えない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
いいえ	+1	-1	-1	+1	-1	-1	+1	+1	+1	-1	+1	-1	-1	-1	+1	-1	+1	+1	-1	+1	+1	+1	-1	-1	+1	-1	-1	+1	+1	-1	
計																															

解説

ばなるほど、男性度が高く、反対にマ
イナスになればなるほど女性度が高い
わけです。

男らしき、女らしさを考える時、伝
統的・慣習的ニュアンスを抜きにして
語ることができない。こうした問題に
ついては、早くからワイニングル、ア
ッセルバッハらによって、指摘されて
きた事柄でもある。すなわち、それら
は社会的なものであり、現実の行動の
レベルでとらえるのが妥当であると考
えられる。

今日では、男女それぞれの価値感が
多様化し、過去の価値尺度では測れな
くなってきている。しかし、その変化
は表面的なものであり、依然として深
層心理的なレベルでは、従来とあまり
変っていないように思われる。

そこで、このテストは伝統的・社会
的・慣習的なものを中心とし、行動・
性格・興味の三方向から、男女の心理
的差異を表わすように構成されてい
る。質問の1〜10までは行動、11〜20
までは性格、21〜30までは興味を表し
ている。



各問ともあなたのテストの結果を○印で下の表にご記入ください

質問	はい	どちらとも えない	いいえ	質問	はい	どちらとも えない	いいえ
1	-1	0	+1	16	+1	0	-1
2	+1	0	-1	17	-1	0	+1
3	+1	0	-1	18	-1	0	+1
4	-1	0	+1	19	+1	0	-1
5	+1	0	-1	20	-1	0	+1
6	+1	0	-1	21	-1	0	+1
7	-1	0	+1	22	-1	0	+1
8	-1	0	+1	23	+1	0	-1
9	-1	0	+1	24	+1	0	-1
10	+1	0	-1	25	-1	0	+1
11	-1	0	+1	26	+1	0	-1
12	+1	0	-1	27	+1	0	-1
13	+1	0	-1	28	-1	0	+1
14	+1	0	-1	29	-1	0	+1
15	-1	0	+1	30	+1	0	-1

ご協力ありがとうございました

思春期学と私 (その4)

副題：思春期の健康課題を考える。

竹 井 操

(高性研顧問・田能村教育問題研究所員)

I. 性教育に求められているもの

1997年9月、当時の文部省・保健体育審議会は、「ヘルスプロモーションの理念に基づき、適切な行動をとる実践力を身につけることが益々重要になってくる(中略)。とくに性的成熟に伴う心理面・行動面・生活面の変化について適切な自己判断・自己決定ができるよう支援することが重要(一部抜粋)として、性に関する指導の充実を図る必要性と内容の進め方をつよく意識した答申を行った。

1997年5月、東京都衛生局は「東京ヘルスプロモーションの策定」において、「ヘルスプロモーションとは、より健康な状態を目指して、人々が自らの健康に積極的に関心を持ち、一人一人を取り巻く環境までも視野に入れて進めていく、個人の、そして社会全体の健康についての取り組みである。」と示唆している。もちろん、健康を広い概念で捉えたものと私は考えている。

全性連の全国性教育研究大会は、「生涯にわたる性的存在としての自己確立をめざす」を主題に、セクシュアリティを重視し実施されている。

☆ 第27回(東京1997年)

「生きる力」を育てる性教育を求めて
—学校・家庭・地域が連携して—

☆ 第29回(熊本1999年)

「生きる力」の獲得をめざして
—豊かな性をともに生きていくために—

☆ 第30回(京都2000年)

「生きる力」を育む性教育
—21世紀を豊で楽しく、健康に生きる—

☆ 第32回(札幌2002年)

「生きる力」と性教育
—第31回北海道性教育研究大会を兼ねる

のように、性に関する指導(性教育)が何を拠り所としているかは明らかである。

1997年3月、当時の厚生省が策定した21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」の中で、母子保健対策に視点をあてた「エンジェルプラン」があり、1998年厚生白書が、「少子社会を考える—子どもを産み育てることに「夢」をもてる社会を—」を編纂主題に掲げたことが、新しい時代の健康や福祉を重視した問いかけであり、今、厚生科学省の「健やか21」に引き継がれていることは、『あふるる』第4号「思春期学と私(その3)」に述べた。「健やか21国民運動」を積極的に展開するための、4つの主要課題の第1課題に「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」があり(第2~第4課題は省略)、学校教育の主管庁である文部科学省もこの運動の推進に加わっている。

II. 都性研の2002年調査についての意見

1981年以来、3年間隔で都性研の調査が行われ、その都度、都性研の報告書「児童・生徒の性」が刊行されてきた。

新調査項目を取り入れた2002年高校調査には、男1510名・女子1554名の生徒が調査協力してくれ、高性研は、膨大な、貴重な研究資料を得た。私も調査委員会に所属し「児童・生徒の性」の編纂に参加していて、この本の刊行は、嬉しいのだが、刊行されただけで充分満足していない。

なぜなら、報告書の体裁(123ページ)は幼・小・中・高・心障養護の調査結果を全て盛り込むため、いわば縮刷版報告書(過去も同じ)であり、まだ研究継続が必要と考えるからである。

私たち高性研は、本当に高校生の性意識・性行動の実態を調査し得たのだろうか? まだ、教材作成の意味で生徒に還元してないのではないのか?

(1) メディアが反応した45.6%

2003年7月、新聞数社が「性交経験 高3女子45.6%」を記事にした。7月24日付：朝日新聞(斉藤泰生氏の署名記事)のタイトルは、「エッチ急ぐオトメ心は？」であった。

都性研の「児童・生徒の性(報告書)」を参照して書かれた記事であるから、初交累積率45.6%は間違いのない数値なのだが、

- ① 調査は、初めての性交経験(初交)を学齢で回答されていること、
- ② 集計が、初交累積率で行われているため、回答保留(N.A.)を省いていること、
- ③ 初交の状況(動機や関係性)が調査されていないこと、

この①②③を考慮し、各学年男女の結果や過去の調査からの推移などから、初交経験の低年齢化は明らかであっても、”高3女子の半数近くが性交経験済み”というまとめは、高校生をあたたく見守る視点ではなく、ある種の煽りである。

「児童・生徒の性」に書かれている他の調査項目の

考察も併せて検証し、さらなる取材を経て論評してほしいと考える。調査研究へのいかなる批評(批判もふくめ)・見解を受け止め、今後の調査研究に役立てたいと考えるが、前記の45.6%だけ報道されるのは、調査委員の望むところでないと思うし、少なくとも私は、メディアの反応に不満を表明したい。

(2) 高校生の姿、意識や行動

われわれの調査目的は、性に関する指導(性教育)にあたり、前述した生徒のための教材開発とわれわれ自身が日常の効果的指導の工夫に役立てるためであり、報告書:「児童・生徒の性」の刊行は、「人間の性」及び「セクシュアリティの教育」について指導的立場の人々への情報提供を狙ったものである。とくに今回は、総合的な内容の学習で行われることの多い生徒の「調べ学習」にも役立つよう、平易な記述にも配慮した。

学習場面で、全データを高校生自身の見解を加えて再考察させるほうが、高校生の姿、意識や行動をより明確に出来ると考える。

資料//東京都幼・小・中・高・心性教育研究会「児童生徒の性意識・性行動調査」

表1. 02高(基数) 高等学校 性別・学年別調査全数

	1年男	2年男	3年男	男子計	1年女	2年女	3年女	女子計
調査対象人数(名)	464	560	486	1510	522	536	496	1554

表2. 02高(問3) 「特定の異性を好きになったこと」の有無(%)

	1年男	2年男	3年男	男子計	1年女	2年女	3年女	女子計
好きになったことあり	89.8	91.6	92.3	91.4	93.7	95.3	96.1	95.0
好きになったことなし	10.1	8.4	7.2	8.6	6.3	4.7	3.9	5.0
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100
回答人数(名)	457	549	459	1465	510	531	487	1528

表3. 02高(問4) 異性から「あなたが好きです」と言われたことの有無(%)

	1年男	2年男	3年男	男子計	1年女	2年女	3年女	女子計
言われたことあり	70.9	69.0	72.1	70.6	80.2	83.1	85.9	83.1
言われたことなし	29.1	31.0	27.9	29.4	19.7	16.9	14.1	16.9
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100
回答人数(名)	460	549	480	1489	518	532	490	1540

表4. 02高(問5) 現在、特定異性との交際(1対1)の有無(%)

	1年男	2年男	3年男	男子計	1年女	2年女	3年女	女子計
現在、交際なし	81.7	78.6	79.9	77.8	76.2	70.1	54.3	70.3
現在、交際あり	17.0	19.8	25.3	20.7	23.0	28.8	34.5	28.7
回答保留(N.A)	1.3	1.6	1.4	1.5	0.8	1.1	1.2	1.0
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100
回答人数(名)	464	560	486	1510	522	536	496	1554

表5. 02高(問9) 異性とのキス経験の有無(%) 《初めての経験を学齢で回答》

	1年男	2年男	3年男	男子計	1年女	2年女	3年女	女子計
キス経験あり	94.7	93.7	90.4	93.1	93.7	96.3	61.7	83.8
キス経験なし	62.1	53.8	46.3	53.9	53.5	39.4	34.7	42.6
回答保留(N.A)	3.2	2.5	3.3	3.0	2.8	4.3	3.6	3.6
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100
回答人数(名)	464	560	486	1510	522	536	496	1554

表6. 02高(問10) 性交経験の有無(%) 《初めての経験(初交)を学齢で回答》

	1年男	2年男	3年男	男子計	1年女	2年女	3年女	女子計
性交経験あり	77.4	77.8	55.6	73.0	20.0	31.2	45.6	37.3
性交経験なし	84.9	75.0	59.9	73.2	76.4	64.0	52.0	64.4
回答保留(N.A)	3.7	3.2	4.5	3.8	3.6	4.8	4.4	4.3
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100
回答人数(名)	464	560	486	1510	522	536	496	1554

02調査でこのあたりを検証すると、(問3)「特定の異性を好きになったこと」の有無(表2)のように、男子<女子の傾向があるが、1年男89.8%から3年女子96.1%まで、異性に好意をもったことが”ある”と回答している。また、(問4)「あなたが好きです」と言われた有無(表3)も、2年男69.0%から3年女子85.91%まで同様の傾向にある。

すなわち、高校生の異性との距離・スタンスは、近く、好意を寄せ合う関係にあるといえる。

しかし、実際の日常生活では、(問5)現在、特定異性との交際の有無(表4)にみるように、「交際なし」が男子計77.8%、女子計70.3%と、(問3)(問4)の状況とかけ離れている。

異性への意識・認識は、(問3)(問4)のように、避けられない環境にありながら、”異性と交際している”は、3年男25.3%・3年女34.5%(下学年はそれ以下)であるが現実であり、総体として行動面は、穏健・堅実といえる。

過去調査からの推移で性行動面を観察すると、

数値(割合)の上昇は、女子に顕著なことは、「児童生徒の性」に記述したとおりである。

(問9)異性とのキス経験の有無(表5)と(問10)性交経験の有無(表6)は、回答保留を含めた割合(%)で集計したものであり、累積率で示された割合とは異なっている。再度ふれるが、累積率は、回答保留(N.A)を除外して、いわば「経験あり」(有効回答)の各学齢での割合を累積して得た数値(%)であり、2ページ冒頭の高3女45.6%と本稿に示した表の数値・43.6%が異なるのはそういった意味である。(なお、報告書「児童生徒の性」では、2種類の表を資料編に記載している。)

「現在交際あり」が少数であることと「キス」や「性交」の経験率が多数であることにギャップがあるが、筆者は、「キス」や「性交」自己の意思に反して、経験させられたもの(性被害的状況)も少なからず含まれていると推察している。

いろんな意味で、中・高校生に、「自分の性をいかに生きるか」を真摯に考えることを求めたい。まだ、取り組む課題は多いと考えている。

Ⅲ. おわりに

本稿”あふるる5号”：「思春期学と私」（その4）には、当初、2002年7月に、(財)母子衛生研究会が作成し、全国の中学校に配布した小冊子：『思春期のためのラブ&ボディー』（実際には、全生徒配布が行われなかった）の性教育的・教材的価値を考証する論文を投稿する予定をしていたが、おなじ年、都性研の調査委員会の1員として

調査研究をすすめ、報告書：「児童生徒の性」の共同執筆も担当させていただいたこともあり、今後に引き継がれるはずの「都性研調査のありかた」に思いを馳せながら、報告書に充分書ききれなかった私の見解を述べた。

『思春期のためのラブ&ボディー』の件は、遠く先送りせず、高性研の月例研究会の研究材料に取り上げていただくことを希望して本稿を終わる。

《 主な参考文献 》

- ① 2002年調査「児童生徒の性」
2002年7月 学校図書株式会社刊
- ② 「新たな性教育プログラムの開発」
平成14年3月 東京都教育委員会刊
- ③ 2002年度 「都性研特別研修会資料集」
ほか

学校教育における性教育

- 「性の授業」の導入とその一例 -

九州国際大学附属高等学校

教諭 宮原万亀

— はじめに —

私が「あふるる」へ投稿をさせて頂くようになって今回（第5号）が4度目となった。第1号をいただいた折、論文投稿のページがあるのを知って、その後毎年投稿させて頂くようになった。

今回は、私が性教育との関わりを持ってからの20年をひとくぎりとしてまとめた小誌『学校教育における性教育』（2003.3.1.発行）の一部を載せさせて頂いた。

この本は、学校教育における性教育の実践例をはじめ、性教育のプログラム例及び、私がこれまでにさせて頂いた講演や講義を一冊にまとめたものであるが、発行直後より、多くの方々からお便りや好評を頂いている。

今回はその中から、「性の授業の導入例」と「導入授業の一例」を投稿させて頂いた。

本文冒頭にも書いているように、“性に関する最初（第一次限目）の授業”は、生徒達がそこから続く授業（及び授業担当教師）によく取り組んでくれるか、“背を向ける”かを決める（と言っても過言ではない）一時間だと思っている。

“私的な部分”と考えている「性の部分」を、“公的な場”である学校教育という場で、しかも“思春期”というデリケートで繊細な時期にある人達に実践するには、その導入においても配慮の気持ちを忘れてはならないと考えている。

ここには、それらのヒントになるかと思える例を記載させて頂いた。

「性の授業の導入例」

（教職員対象：性教育研修会・保護者対象：講演会より）

私は、毎年度“性の授業”を担当するにあたって、一番気を使うのは（やはり）年度初めの最初の授業です。

生徒達が、そこから続く何時間もの「性に関する授業」に、よく取り組んでくれるか“背を向けたまま”で終わるかの分岐点ともなる一時間と考えています。最初の授業で実際の授業内容に入れなくても、“その後を大きく左右する一時間”と言うことからすれば、充分意義のある一時間になると思えます。

私は最初の授業で、『性に関する授業・年間計画』をプリントして生徒に配布しています。中学生と高校生では特に中学生の授業などでは、その授業内容の中に“性”の文字を見ただけで、（この授業ではどんなことを教えられるのだろう・・・と）生徒はもう硬直したような顔で私のほうを見ます。私のほうとしては毎年予測できる生徒の表情であり、私が教わる側の生徒であったとしても同じであろう・・・と思えます。

私は、“性に関する部分”は、プライベート（私的）な部分と考えています。その（私的）な部分を、学校という（公的）な場でしかも、“今日出会ったばかりのオバサン先生”から、「性器や性機能に関する授業」を受けることには、抵抗を感じる生徒は多いことと思えます。

そこで私は、生徒に少しリラックスしてもらうために、「今日の授業の最後に皆さんの名

前の読みもメモをして覚えますから、今年一年間 保健の授業を担当する“先生”の名前も正確に覚えてください」と、私の名前の字（万亀）の話から入ります。

「私は、名字は宮原、そして下の名前は“万に亀”と書いて、“まき”と言います。“まんがめ”ではありませんよ…と言うと、今皆さんがちょっと笑ってくださったように、（緊張している）生徒の顔にも少し笑顔が見られます。

この名前は祖父が付けてくれた名前、姉と“セット”になっている名前なのです。（ここで生徒の表情は、“セットになっている”ってどういうこと…？ というふうになる）

私には4才上に、“千に鶴”と書いて“ちづる”という姉がいます。（生徒の、“へー”という表情とともに、教室の中に笑い声が起る）そうです、“鶴は千年、亀は万年”なのです。「100歳まで長生きをして、二人でテレビに出よう！」と話しています。

でも、この万亀（まき）は、私のいない所では、“マンガメ”や“マンガメ先生”で通っていることを確認したことがあるのです。それは、担任をしているクラス生徒の保護者の方が学校においてになった折りのことですが、（学校の）受付で、（堂々と 何の疑いもない様子で）「マンガメ先生をお願いします」とおっしゃったそうです。その瞬間、受付の奥（ついで立ての後ろの事務室）では、爆笑が起こったとのことですが、保護者の方は、“娘の担任の名前はマンガメ”と固く信じているようで、（事務室の笑い声にも）“今、受付の奥で何か面白いことでもあったのかな…”という表情だったそうです。

私は、そのことを、保護者の方がお帰りになった後で 受付の職員から聞かされたのですが、“それによって”、ナルホド…生徒の家庭や私のいないところでは、“私の名前は、マンガメで定着している所もある…”ことを確認させられました。

もう生徒の目も気持ちも、完全に“こちらの手の中”です。

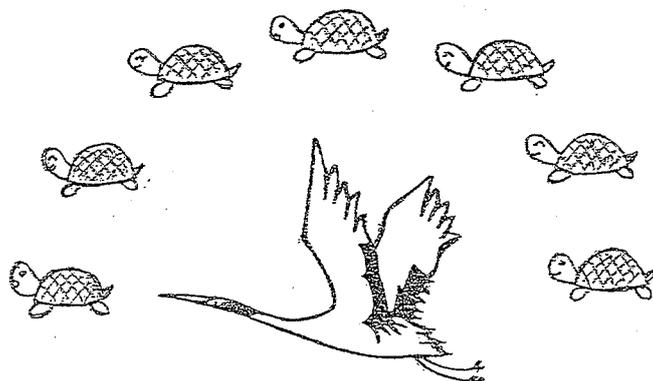
先ず初めは、生徒に“この先生の授業を聞いてみようかナー”という気持ちになってもらえば、あとは 毎時間ごとの授業で、生徒の反応や、理解度を確認しながら進めていけば良いと思っています。

担当教師それぞれが、それぞれの、『性の授業への導入方法』をお持ちになるのが良いと思います。

“性”という分野の授業は、その導入がうまくいかない（つまりいてしまう）と、その先の授業に、生徒が“斜め”どころか、“背”を向けてしまうことも考えられます。

自分の授業を受ける生徒達は、“思春期という、デリケートで繊細な時期にある人達”であり、“性という、プライベート（個人的）な部分に関する授業内容である”という謙虚な気持ちを根底に持つことが大切だと思います。しかし自信を持って、毅然とした態度で授業に臨むのが良いかと思っています。

その授業が、生徒を引きつけ且つ 説得力を持つには、日々の研究と研鑽が伴ってこそ…とも思っています。



「性の授業の一例」(性教育講話より)

“命を大切にしましょう”の語り掛けや、“子供達に命の大切さを教えよう”ということに『性教育』の分野でも多くの方が、あらゆる角度から努力をされています。

これらのことは、私自身が『性教育』に関わりを持って以来、常に根底に置いて来たことでもあります。

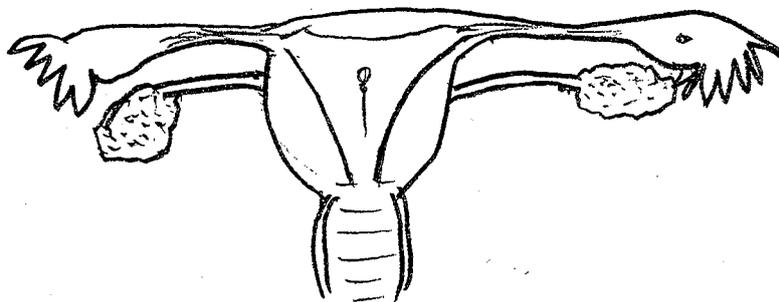
しかし私が思うに、“唯ひたすら”「命を大切にしましょう！」と“100回”聞かされる(語り掛けられる)よりも、その子供が本当に(命の大切さや生きることのすばらしさを)実感できてこそ、より、その子供が生涯にわたって生かして行けるのではないかと考えています。

その切っ掛けの一つにもなれば…と、私は、『性の授業』に入る初めに、黒板に分数の一連と、女性の生殖器の絵(下記)を書いて授業に入ります。

これから私が、教室で授業をしている時のように(その部分の)話をしてみますので、皆さん方は、その授業を受けている生徒に成り代わって、聞いていただければ…と思います。

$\frac{1}{400}$ ~ $\frac{1}{30}$ ~ $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{40}{100}$ ~ $\frac{100}{0}$ ~ 出産 ~ 現在

(1ヶ月) (1回の射精) (ゼロ)



サァ 皆さんにはこれから一年、『性に関する授業』で様々なことを学習して頂きますが、一連の授業から、「自分の命って大切にしなければいけないんだナ〜と思うことができ」又、「自分の回りの人達も皆自分と同じ大切な命を持つ人達なんだ…と、他の人達を思いやる心(気持ち)を持てるようになること」が大切だと考えています。

そこで、実際の学習単元に入る前に、ここに書いた分数の一連から、「命の大切さ」を実感し始める取っ掛かりにして頂きたいと思います。

ここに書き連ねた分数には、全てに約(およそ)が付きますが、先ずは一番右に書いている  を見てください。今皆さんがそこに“座っている”、私がここに“立っている”ということは、“ものすごい関門をクリアした結果”だと(私は)思っているのです。

一番左に書いた400コ分の1コ。この400コというのは、第二次性徴後、女性が約40年間につくり出す卵子細胞の数です。この卵子細胞は、人間の持つ細胞で最も大きい細胞の一つであり、人間の可能性の半分を持つ生殖細胞です。

もし、この教室に、“自分は(兄弟姉妹がいない)一人っ子”という人がいたら、その人は正に、自分の母親が作り出す約400コの卵子細胞の1コに“当たった”ということになります。(兄弟姉妹が二人や三人だという人も、すごい確立で“当たった”と思いませんか…)

しかも、今ここにいる女子の中で、もう 月経が始まっている人がいるとしたら、その人の体ではもう 卵子細胞がつくり出されているわけですが、その卵子は今現在“人間にはなれていません”(私の体で今つくられている卵子も、現在は“人間になれてはいません”)

女性が 妊娠・出産をするであろう、10年～15年の間に つくり出された卵子細胞に、私たちは “当たった” ということになります。

次に書いた分数- 30日分の1日に進みますね。これは一カ月を30日としてですが、排卵された卵子は、卵管（膨大部）で 一日（約24時間）しか生きていません。（受精能力としては 僅か数時間とも言われています）

そして、女性は卵子細胞を、一カ月に（普通）1コしか作り出しません。私たちは、この丁度（30日の内の1日）卵子細胞が活着している時に、父親の精子細胞が受精を起こしてくれたということになります。（30日分の 29日間は、どんなに多くの精子細胞が女性の体に入って来ようとも、卵子細胞がないわけですから…。喜び合いたいですね…。）

次は- 3億コ分の1コについてです。男性は、一回の射精で3億～4億コの精子を射出します。もし女性の体に射出された時、（30日分の1日で）卵子が卵管に生きていたとすると、この約3億コの精子の中で最初（一番）に受精を起こした精子だけが人間の可能性をスタートすることができます。精子は、人間の細胞で最も小さな細胞のひとつで 約50ミクロン。精子が受精のために泳ぐ卵子までの距離は、人間に置き換えてみると、沖縄～北海道の距離に相当します。しかも卵管は（子宮の先で）二方向に別れているので、いくら泳ぎが速い精子でも、別の方向に進んでしまったのでは “人間にはなれない” ということなのです。

射精された精子（の一群）が、女性の体内を（卵子求めて）進んで行く、受精までを追ったビデオがあるので、見せてあげるのが楽しみ…。 “使命感に満ちあふれている” というか、途中の体の細胞を卵子と間違えて、一所懸命に受精をしようと努力している精子も撮影されています。

次の（分数）100分の40。これは 40%を意味したものです。人間の細胞は、（精子と卵子）2コから始まり、2コが4コ → 8コ… と 細胞分裂を繰り返しながら子宮へと移動する細胞分裂の過程で、“約60%の受精卵は死ぬ” といわれています。（せーかく受精をしても半分以上が死ぬのです…。）私たちは、40%の方に残って生まれて来ることができました。

次には、100 or 0（百かゼロか）と書いたのですが、「人工妊娠中絶」を意味しています。人工妊娠中絶とは、『母体保護法』という法律に照らし合わせて、「胎児を人工的に母体外に排出すること」とされていますが、合法的以外のものを含めると、現在日本では一年間に、出生数とほぼ同じ件数の人工妊娠中絶手術が行われていると言われます。

“人命の尊さ” や、“胎児は何時から人としての権利を有するのか” 又、“産む、産まないを選択する権利” などについては、現在様々な考え方があり、それについては、ここでは置いておくことにします。

私たちは胎児であった時、胎内から “生まれたい” とか “生まれたくない” のメッセージを送ることはできませんでしたが、親が生むという方を選択した結果、生まれることができました。その後、流産や早産の危険性、出産時の様々、そして、これまで病気や怪我もしたかもしれないし、病院や薬のお世話になったかもしれないけれど、今そこに “座ってられる”、ここに “立ってられる” ということは、とても幸運の伴った、感謝できることに（私には）思えるのです。

“（今日板書した）一連のこと” を振り返れば、“自分の命ってスゴイものであり、与えられた命（人生）を大切に、精一杯生きてみよう” という気持ちがおこるのではないかと思っています。

以上、『学校教育における性教育』（2003年3月1日発行）、九州国際大学附属高等学校教諭・東京都高等学校性教育研究会会員 宮原万亀 著より

東京都高等学校性教育研究会会則

第一章 総則

第1条 本会は、東京都高等学校性教育研究会と称する。(略称 高性研)

第2条 本会は、高等学校における性に関する指導を重視し、その必要性を認識するものによって組織され、次の事項を目的として活動する。

- 1 学校教育における性教育の在り方、進め方に関する実践的な研究を行う。
- 2 性教育を通して、生徒の健全育成に関する研究を行う。
- 3 人間の性に関する研究を行う。

第3条 本会は、第2条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 1 研究協議・講演会・公開授業などの開催
- 2 調査研究、情報収集
- 3 各種機関・団体との連絡・連携
- 4 研究集録
- 5 その他

第二章 組織

第4条 会員は、都内の高等学校教職員及び第2条の項目に賛同する者をもって組織する。

第5条 本会は、次の役員を置く。

- 会長 (1名)
- 副会長 (若干名)
- 常任理事 (若干名)
- 理事 (若干名)
- 事務局長 (1名)
- 会計 (2名)
- 会計監査 (2名)

第6条 役員を選出は、総会において行う。

第7条 役員の仕事は、次のように定める。

- 1 会長は、本会を代表し、会務を統括する
- 2 副会長は、会長を補佐する
- 3 常任理事・理事は、会務を処理する
- 4 分掌は、事務・会計・研究・調査・広報の5部門を置く
- 5 会計は、経理を担当する

6 会計監査は、本会の会計について監査を行う

第8条 役員の仕事は、2年とする。但し、再任は妨げない。

第9条 本会には、顧問を置くことができる。

第三章 会議

第10条 本会の会議は、総会・定例会・理事会及び各部会とする。

第11条 総会は、会長がこれを招集し、開催する。

第12条 総会は、毎年1回開催する。但し、必要のある場合は、臨時に開催することができる。

第13条 総会に付議する事項は、次のとおりである。

- 1 事業計画の決定
- 2 予算及び決算の承認
- 3 役員選出及び承認
- 4 会則の変更
- 5 その他の重要事項

第四章 会計

第14条 本会の経費は、高研連加入校会費及びその他の会費をもって、これに充てる。

第15条 会計年度は、毎年4月1日より翌年の3月31日までとする。

第16条 本会の会費は、学校単位とし、年額次のとおりとする。

- ・ 全日制 2,800円
- ・ 定時制 1,400円

第四章 付則

第17条 本会の事務局は、事務局長の現任校に置く。

第18条 会則は、平成元年4月1日 一部改正平成10年5月29日より施行する。

平成14年度役員

会 長 小泉 功
(都立小金井北高等学校長)

副会長 筒井 邦夫
(都立代々木高等学校長)

竹内 章
(都立両国高等学校教諭)

林 正
(関東第一高等学校教諭)

事務局長 井谷 享
(都立武蔵高等学校教諭)

副局長 川端 洋介
(都立国際高等学校教諭)

会 計 榎 茂喜
(都立世田谷泉高等学校教諭)

加藤 万一朗
(都立武蔵村山高等学校教諭)

会計監査 高梨 昭
(都立小石川高等学校教諭)

黒沢 順子
(都立深川高等学校養護教諭)

研究部長 田原 正之
(都立両国高等学校教諭)

副部長 川端 利昭
(都立城東高等学校教諭)

調査部長 柳瀬さち子
(都立西高等学校養護教諭)

副部長 井口 一成
(都立葛西工業高等学校教諭)

広報部長 林 美智子
(都立東高等学校養護教諭)

副部長 相川 玲
(都立小石川高等学校教諭)

理 事 柴崎 英樹
(都立墨田工業高等学校教諭)

尾崎 武彦
(都立向丘高等学校教諭)

山元 和三
(都立第三商業高等学校教諭)

研究紀要誌「あふるる」投稿規定

1: 執筆要項

- (1) 横書き、20字×20行、縦割り2段組とします。段組の間を2文字分空けて下さい。
- (2) 表題と本文の様式や書き出しの行は特に規定しません。
- (3) ページ数は4ページ以内を原則とします。
- (4) 原稿は、フロッピディスク(ワードまたは一太郎)とプリントアウト原稿1部をご提出下さい。なお、ご提出されたフロッピディスクは返却できませんので、ご了承下さい。

2: 原稿締切、提出先

2月末日までに、事務局宛にご提出下さい。

[事務局] 及びお問合せ先

〒180-0022

東京都武蔵野市境4-13-28

東京都立武蔵高等学校内 井谷 享

TEL 0422(51)4554

平成14年度 会費納入校一覧 (平成15年3月31日現在)

区分	学校名
私立	青山学院高等部
私立	小野学園女子高等学校
私立	桜美林高等学校
私立	関東国際高等学校
私立	吉祥女子高等学校
私立	共栄学園高等学校
私立	京華高等学校
私立	啓明学園高等学校
私立	麹町学園女子高等学校
私立	佼成学園女子高等学校
私立	駒込高等学校
私立	駒沢大学高等学校
私立	駒場学園高等学校
私立	品川エトワール女子高等学校
私立	淑徳学園
私立	淑徳巣鴨中学高等学校
私立	淑徳高等学校
私立	順心女子学園高等学校
私立	女子聖学院高等学校
私立	白梅学園高等学校
私立	成城高等学校
私立	成城学園高等学校
私立	成女高等学校
私立	聖ドミニコ学園高等学校
私立	玉川聖学院高等部
私立	中央大学杉並高等学校
私立	東京電気大学高等学校
私立	東京学園高等学校
私立	東京文化学園高等学校
私立	東京女学館高等学校
私立	東京家政大学附属女子高等学校
私立	東京女子学園高等学校
私立	桐朋高等学校
私立	日体荏原高等学校
私立	日本大学第三高等学校
私立	日本大学第二高等学校
私立	農大第一高等学校
私立	八王子実践高等学校
私立	富士見高等学校
私立	武蔵野女子学院高等学校
私立	立教女学院高等学校
私立	立正高等学校
私立	早稲田実業高等学校

区分	学校名
都立	秋留台高等学校
都立	飛鳥高等学校
都立	足立高等学校
都立	荒川商業高等学校
都立	井草高等学校
都立	上野高等学校
都立	大泉高等学校
都立	大泉北高等学校
都立	大崎高等学校
都立	大山高等学校
都立	小笠原高等学校
都立	荻窪高等学校
都立	葛西南高等学校
都立	葛飾商業高等学校
都立	葛飾野高等学校
都立	蒲田高等学校
都立	北園高等学校
都立	北多摩高等学校
都立	北野高等学校
都立	久留米西高等学校
都立	小石川高等学校
都立	小岩高等学校
都立	江東商業高等学校
都立	江北高等学校
都立	小金井北高等学校
都立	国際高等学校
都立	国分寺高等学校
都立	小平高等学校
都立	狛江高等学校
都立	小松川高等学校
都立	桜町高等学校
都立	桜水商業高等学校
都立	鮫洲工業高等学校
都立	篠崎高等学校
都立	芝商業高等学校
都立	城東高等学校
都立	神代高等学校
都立	杉並高等学校
都立	隅田川高等学校
都立	砂川高等学校
都立	世田谷工業高等学校
都立	世田谷泉高等学校
都立	台東商業高等学校
都立	第一商業高等学校
都立	第五商業高等学校
都立	第三商業高等学校
都立	第四商業高等学校
都立	竹台高等学校

区分	学校名
都立	千歳丘高等学校
都立	調布北高等学校
都立	豊多摩高等学校
都立	都立大付属高等学校
都立	成瀬高等学校
都立	新島高等学校
都立	西高等学校
都立	練馬高等学校
都立	野津田高等学校
都立	八王子高陵高等学校
都立	八王子東高等学校
都立	羽村高等学校
都立	東高等学校
都立	東村山高等学校
都立	東大和南高等学校
都立	一橋高等学校
都立	日野高等学校
都立	日野台高等学校
都立	日比谷高等学校
都立	広尾高等学校
都立	深川高等学校
都立	深沢高等学校
都立	淵江高等学校
都立	府中高等学校
都立	府中西高等学校
都立	府中東高等学校
都立	文京高等学校
都立	保谷高等学校
都立	本所高等学校
都立	松原高等学校
都立	水元高等学校
都立	港工業高等学校
都立	南高等学校
都立	南葛飾高等学校
都立	南平高等学校
都立	南野高等学校
都立	三宅高等学校
都立	向丘高等学校
都立	向島商業高等学校
都立	武蔵高等学校
都立	武蔵丘高等学校
都立	武蔵村山高等学校
都立	八潮高等学校
都立	山崎高等学校
都立	雪谷高等学校
都立	四谷商業高等学校
都立	代々木高等学校
都立	両国高等学校

私立 計 43校

都立 計 94校

あ と が き

平成14年4月の理事会から平成15年3月の理事会まで年間7回の研究協議会と北海道札幌市での全国性教育研究大会、群馬県前橋市での関東甲信越静性教育研究大会、都性研の高校の部で研究発表、宿泊研修と1年間を無事終了することが出来ました。会員各位のご協力のたまものと感謝しております。

それにしても、平成14年度は性教育に関わる者にとって、あらためて「性教育とは」と問いかけられた年ではなかったでしょうか。

ラブ・ボディという冊子のピルに対する取扱いの是非をめぐる論議から、小学校における「性器・性交教育」と週刊誌に掲載された小学校での性教育のあり方まで、国会を巻き込んで様々な論議がなされているところです。

これから性教育に携わる者は、生徒や保護者、ひいては国民の多くの皆様に納得していただけるように説明責任を果たさなければならないと思います。

5月16日(木)の日本性教育協会における高性研総会では、研究協議の講師に吉田敦子先生をお願いし、日本家族計画協会思春期相談員の立場から「性感染症の現状について」相談事例をあげながら中学高校生の実態を話していただきました。

この現状を改善するための方策はあるのだろうか、何とかしなければと思いつつ行動に結びつかないもどかしさを感じながら、平成14年度のスタートをきりました。

10月25日(金)には、都立世田谷泉高校で研究授業が行われました。内容は、『日本史』光森佐和子先生と『生物』榎茂喜先生のコラボレーション。日本史は、江戸時代、封建制度下での女性の仕事と結婚について、生活様式・経済構造・社会制度などの歴史的な変化をおいながら自分たちの結婚観を確認する。

生物は、ヒトへの進化の過程における骨格

都高等学校性教育研究会副会長 筒井 邦夫
の変化とそれがもたらす脳の発達、生活様式の変化をおいながら、他の動物と異なる生殖や性行動について学習し、ヒトの結婚について自分の考えを持つという内容です。

異なる教科で、それぞれの専門分野を生かした「性教育の試み」でした。授業後の研究協議も活発に意見交換が行われ、新しい授業形態の息吹を感じました。

平成15年1月23日(木)神楽坂「エミール」にて、田能村祐麒先生(全国性教育研究団体連絡協議会理事長)をお迎えし、「教育改革と高校生の性教育」という演題での講演・研究協議を行った。

大正末期から昭和初期の時代背景から「変化の激しい、先行き不透明な厳しい時代」を現在にオーバーラップさせて分かりやすく説明。日本の社会的な現状と性感染症の蔓延、児童生徒の性意識・性行動の現状とその背景、自尊感情の欠如、男女のつきあい方の学習等々である。

そして、「自らを築く」「自己を確立する」ことが最も重要ではないだろうか、と日本人の人間観、自他の性に対する理解と認識、自尊感情の喪失等を課題として提起された。

課題解決のために、対人関係を育てる、他者の生き方の尊重をあげるとともに、「性的逸脱行動の出現構造図」によって視覚的な説明がなされ、新学習指導要領の実施に向けて有意義な内容であった。

「あふるる」第5号の発刊にあたり、会員の皆様の熱心な研究協議をもとに、性教育関係の研究大会情報等の充実に努めましたが、改善すべき点が多々あると存じます。遠慮なくご意見、ご感想等お願いいたします。下記へのご連絡、お待ちしております。

東京都高等学校性教育研究会 事務局長
都立武蔵高等学校 教諭 井谷 享
TEL 042-251-4554 FAX 042-251-3966

あひる

第 5 号

発行 平成 15 年 5 月
発行者 都高等学校性教育研究会
印刷 (有)梶山印刷 3944-2941